ISSN 1343－7837
土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第23集

高知県土佐山田町

須江上段遺跡松ノ本地区

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004.7

土佐山田町教育委員会

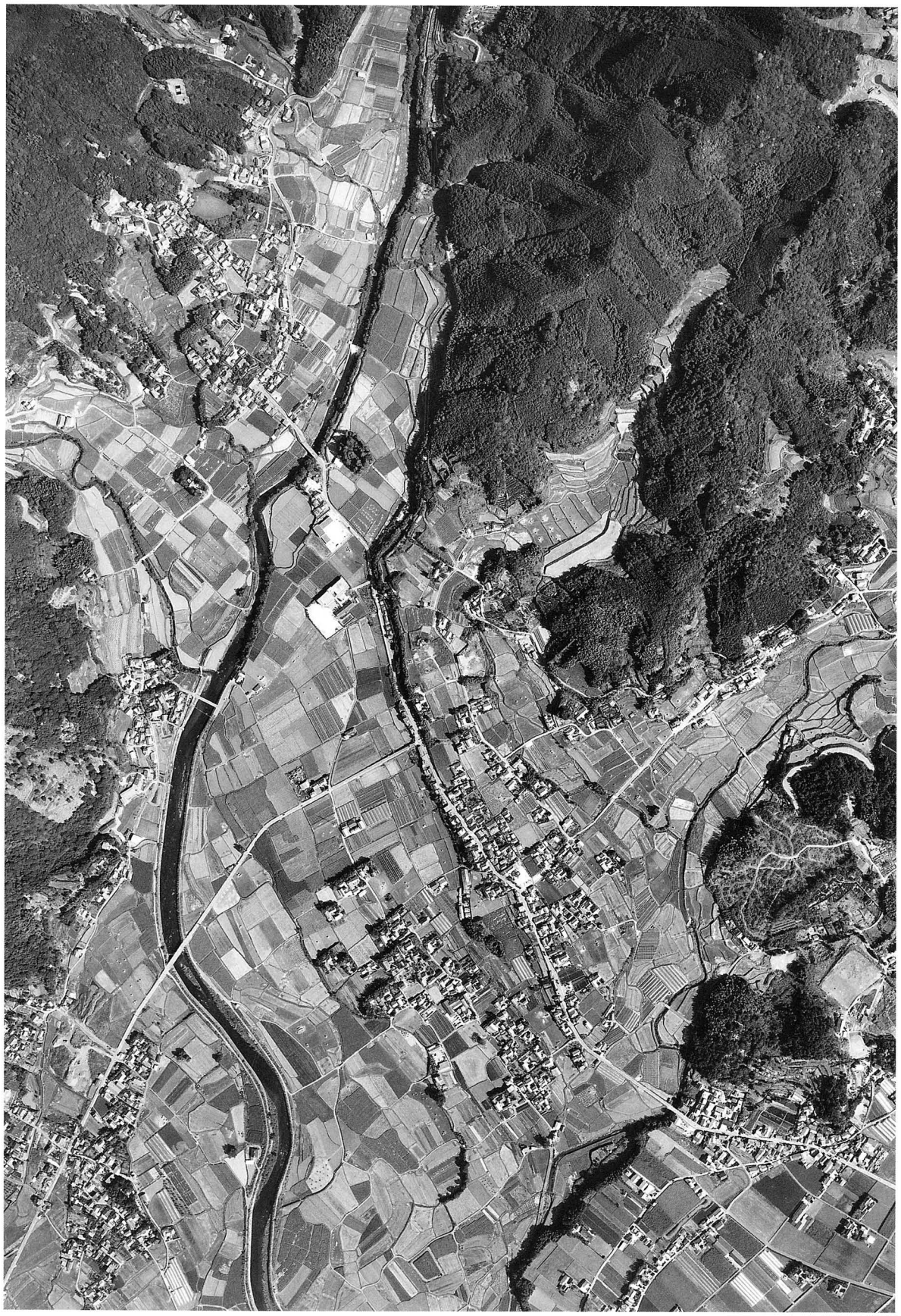
高知県土佐山田町

須江上段遺跡松ノ本地区

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004.7

土佐山田町教育委員会



序

土佐山田町は物部川の西岸に広がる田園地帯を占めており、古くから文化の栄えた地域です。北部の山裾部から長岡台地上、さらには香長平野にかけて多数の遺跡の所在が確認されています。これらの遺跡は過去の人々の生活の証であり、過去から現在への無言のメッセージです。このメッセージの中には先人達の培ってきた英知が込められており、現代に生きる我々は、未来へ向けて共有の財産として遺跡を継承しなければなりません。

しかしながら自然多きこの土佐山田町にも開発の波は押し寄せています。各種の開発工事とともに農業基盤整備事業も重要な施策として推し進められており、その規模は拡大の一途であります。農業という基幹産業の発展には欠かせない事業ではありますが、広範囲におよぶため遺跡が含まれることが多く、その保存には努力がはらわれているところです。

今回の山田北部県営圃場整備事業においても多数の遺跡が工区内に所在しており、特に須江上段遺跡の保存が困難であることから記録保存のための発掘調査を実施しました。調査の結果、弥生時代の住居跡や古代の建物跡が確認されました。

このような調査結果が、土佐の古代史の歴史像を具体的に提示できることを願ってやみません。本書の刊行にあたりましては、発掘調査及び整理作業等に際し色々とご指導、ご協力いただきました関係各位、並びに関係機関には厚くお礼申しあげます。

平成16年７月

土佐山田町教育委員会
教育長　　原　初惠

例　　言

1．本書は、土佐山田町須江地区における県営圃場整備事業に伴う須江上段遺跡の発掘調査報告書である。

2．須江上段遺跡の所在地は、高知県香美郡土佐山田町須江字松の本他である。

3．試掘調査は、平成２年11月26日～平成３年２月６日、発掘調査は、平成７年12月１日～平成８年３月29日に実施した。調査面積は1,800㎡である。

4．発掘調査は、高知県教育委員会の指導のもと土佐山田町教育委員会が主体となり実施した。

5．本書の執筆・編集等は中山が行った。

6．遺構についてはＰ（ピット状遺構）SK（土坑状遺構）SD（溝状遺構）SX（性格不明）で表示した。

7．報告書作成にあたっては高知県教育委員会文化財課、（財）高知県文化財団埋蔵文化財センターの各調査員の方々からご協力、ご教示をいただいた。記して感謝の意を表したい。

8．発掘調査にあたっては土佐山田町山田北部土地改良区、地元須江地区の方々にご協力、ご支援を頂いた。関係各位に厚くお礼申しあげます。

9．発掘調査及び整理作業には下記の方々にご協力いただいた。

発掘作業員

佐々木龍男・小松一仁・池　宣宏・竹村幸宏・吉川徳子・中沢英子・岩瀬好子・山下厚子・山崎政子・武内　環・藤村清子・井上静衛・門田安代・山中美代子・宮本幸子

整理作業員

松木富子・山中美代子・宮本幸子・井上博恵・臼木由里・門田美和子・竹村延子・矢野　雅・宮地佐枝・川村亜矢・伊藤　仁・竹崎寛将・高橋加奈・宗石祥一・風間俊秀・山口　正

10．当遺跡出土資料（95-39YSM2）は、土佐山田町教育委員会が保管している。

本文目次

第Ⅰ章　遺跡の位置と地理的・歴史的環境

１．地理的環境…… 1

２．歴史的環境…… 3

第Ⅱ章　調査に至る経過…… 7

１．調査に至る経過

２．調査の方法

第Ⅲ章　調査成果…… 9

（１）竪穴式住居跡

（２）掘立柱建物跡

（３）土坑

（４）溝

（５）ピット

（６）性格不明遺構

（７）包含層出土遺物

第Ⅳ章　総括……27

写真図版目次

巻頭図版　須江上段遺跡周辺全景

PL 1　Ⅰ区　遺構検出状況
PL 2　Ⅰ区　遺構検出状況・遺構完掘状況
PL 3　Ⅰ区　遺構完掘状況・遺物出土状態
PL 4　Ⅰ区　遺物出土状態
PL 5　Ⅰ区　遺構検出状況・遺構完掘状況
PL 6　Ⅰ区　遺構完掘状況
PL 7　Ⅰ区　遺構完掘状況・遺物出土状態
PL 8　Ⅰ・Ⅱ区　遺物出土状態・遺構検出状況
PL 9　Ⅱ区　遺物出土状態・遺構完掘状況
PL10　Ⅱ・Ⅲ区　遺構検出状況・遺構完掘状況
PL11　出土遺物
PL12　出土遺物
PL13　出土遺物
PL14　出土遺物
PL15　出土遺物
PL16　出土遺物
PL17　出土遺物
PL18　出土遺物

第Ⅰ章　遺跡の位置と地理的・歴史的環境

1．地理的環境

土佐山田町は高知県の中央東寄りに位置し、県下第３位の川である物部川の中流域に位置する。物部川により形成された沖積平野に県下最大の穀倉地帯である高知平野の北端に位置し、物部川の洪積台地及び四国山地の一部を含む。

この物部川は、県北東部の香美郡物部村、剣山山系の白髪山（1,770m）の東斜面に源流を発し、高知平野東部の同郡吉川村で土佐湾に注ぐ。上・中流域は仏像構造線に沿って直線的に西南西流しており、流路に沿った上流へのルートは古来阿波国への最短距離として知られている。物部川に沿う山間部には河岸段丘が発達し(1)、土佐山田町で流路を南に変える。土佐山田町神母の木付近において平野部に流入し、肥沃な高知平野を縦断する。

高知平野東部を成す香長平野は不整形の扇状地で物部川両岸には鏡野(2)、山田野(3)と言われる古期扇状地の砂礫層から成る洪積台地を形成している。この台地は長岡台地と称される。長岡台地は、香長平野の北部を土佐山田町から南国市にまたがり、北東から南西に約５km連なる。洪積世中期以降に形成された比較的連続性に富んだ砂礫台地で隆起性扇状地である。

標高は扇頂部に近い土佐山田町付近では約50mに達し南西に緩やかに傾斜し、扇端部の南国市後免町付近では10m～15mである。台地面の北西側は国分川流域に扇状地性低地、南東側は物部川下流域の扇状地性低地に対して段丘面を持って接している。台地は河床から５m内外の標高を持ち、台地の間に新期扇状地が広がり、北端部は国分川の浸食により断崖を形成する。

洪積台地には旧石器時代の遺跡は発見されていないが物部川河岸段丘両岸の山麓部(4)、国分川水系である砥川の発生する山間部の山麓部(5)で確認されている。また縄文時代の遺跡もほぼ同じ位置に所在する(6)。新期扇状地から沖積平野にかけての大地には県下最大の遺跡群、田村遺跡群（縄文時代～近世）(7)を始め大篠遺跡（弥生時代）(8)が分布する。また、条里制地割の遺構が広く認められるが、旧物部川は洪水氾濫をたびたび繰り返しており条里制地割の乱れた地域も多く、旧流路も数本認められる。

土佐山田町の市街地が乗っている扇頂部分付近は周囲に比べて高位な面となり、南部に一段低い下位面があり、二段の段丘面となっている。中央部から末端部は低地性氾濫原に向かって緩やかに台地斜面が傾斜し、特に南西端は扇状地性低地の粗粒性沖積層に埋没しており湧水地帯となって小河川が流出し湿地帯を形成している。土壌は多湿黒ボク土壌であり、層の厚さは20cm～50cm以上で下層は灰色か灰褐色の場合が多い。台地面は自然の河流が無く江戸時代以前は開発が遅れていたが、江戸時代初期、土佐藩奉行野中兼山が物部川に山田堰を築き、灌漑水路を設けたことによって台地面にも導水が行なわれた。開発には、郷士が登用され、台地上には旧郷士屋敷が散在し、散村的景観を呈している。また、後免・土佐山田・野市の在郷町もこの時期に形成されたものである。

灌漑用水により、かつては米の二期作が盛んであり、現在も高知平野の水田地帯の一部であるが、乾田であるため、古来、葉タバコ・野菜の栽培も盛んである。近年はビニールハウスの施設園芸も増加してきている。町域面積の70％を森林地帯で占め、林業が盛んで良材を多く産出する。工業は、

地場産業の打刃物などがある。扇頂部の土佐山田町は物部川上流部と香長平野の接点に立地した谷口集落でもある。台地面はかつて開発の主体となった郷士屋敷の点在する散村形態がみられ、現在もその景観の名残がみられる。台地面の長軸（北東～南西方向）にほぼ沿う方向でJR土讃本線及び国道195号線が直線的に通過している。東にある三宝山の中腹には国指定史跡及び天然記念物である龍河洞があり、県下でも有数の観光地となっている。

註

（1）『南国市史』上巻　南国市教育委員会　1979

（2）『野市町史』上巻　野市町教育委員会　1992

（3）『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会　1979

（4）佐野楠目山からは石核、剥片などが表面採集されている。

（5）新改西谷遺跡からはナイフ型石器が多量に出土している。

（6）新改開キ丸遺跡などがあげられる。

（7）『田村遺跡群　高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第１分冊～第15分冊　1986　高知県教育委員会

（8）註（1）に同じ

参考文献

『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会　1979

『角川　日本地名大辞典　39高知県』　角川書店　1986

2．歴史的環境

土佐山田町は、地理的に恵まれ県下最大の穀倉地帯である香長平野の一画に位置することから原始以来、脈々と人の営みを台地に刻みつけている。また、南に隣接する南国市とともに県下屈指の遺跡密集地帯である。

土佐山田町の歴史は、北部山麓部の西谷遺跡[1]の調査により旧石器時代後期に始まる。二次堆積物ではあるがチャート製のナイフ型石器が多量に出土し、遺跡の立地など奥谷南遺跡[2]と非常によく似ている。続く縄文時代では、新改川の河岸段丘上に立地する開キ丸遺跡[3]より早期押型文土器が出土し、また新改川支流の砥川左岸の小山田遺跡[4]からは、晩期の土壙４基と突帯文土器が出土している。北部山間部に所在する飼古屋岩陰遺跡[5]からは早期押型文土器、厚手無文の葛島式土器、中期の船元Ⅱ式土器、後期の彦崎ＫⅡ式土器とともに多量のサヌカイト製の石鏃が出土している。また、東部物部川左岸の段丘上に林田シタノヂ遺跡[6]が存在するが、ここではピット状遺構から後期初頭の中津式土器が出土している。

弥生時代では前期に属する遺跡の確認には至っておらず、今のところ中期後半に位置づけられる龍河洞洞穴遺跡[7]が最古である。この遺跡は全山石灰岩でできた三宝山（322m）の中腹に開口した洞穴遺跡で、昭和８年に遺跡の部分が発見され、翌９年に天然記念物及び史跡として国指定を受けている。洞内の生活面は３室からなり、出土遺物は凹線文の発達した龍河洞式土器をはじめ、鉄鏃、石錘、有孔鹿角製品、貝輪、骨製管玉、瑠璃製勾玉等の装身具、貝類、獣骨類の自然遺物などである。また、龍河洞式土器に混在してただ一点、弥生時代後期末のヒビノキⅡ式土器が出土している。龍河洞洞穴遺跡と同時期とみられる遺跡に、予岳遺跡[8]、雪ヶ峰遺跡[9]、影山遺跡[10]がある。中期後半に属する遺跡は多く、原遺跡[11]、原南遺跡[12]からは竪穴住居跡とともに環濠と思われる溝や掘建柱建物跡等、集落を構成していた遺構も発見されている。その北部台地上には、弥生時代後半～古墳時代初頭の土器群が出土したひびのき遺跡[13]が存在する。これらの土器群はヒビノキⅠ～ヒビノキⅢ式土器と命名され、高知県中央部以東の標準式土器とされていると同時に、同遺跡がその時期に集落遺跡として栄えたことを示している。

弥生時代も後期となると遺跡数、規模の拡大がみられ、特に同遺跡に代表される後期後半に属する遺跡の急増が認められる。隣接するひびのきサウジ遺跡[14]では、弥生時代後期後半の竪穴住居跡が５棟検出されており、この内１棟は祭祀的意味を持つものと考えられている。また、物部川左岸には林田遺跡[15]が存在する。ここからは竪穴住居跡５棟が検出され、土器と共に多量の鉄鏃が出土している。

古墳時代には、小円墳・横穴式石室・群集といった特徴を持つ後期古墳が存在し、山麓部を中心に知られている。中でも、ひびのき遺跡に近い伏原大塚古墳[16]は、５世紀末から６世紀初頭に築造されたと考えられる。また、この古墳の周溝からは須恵器の円筒埴輪が出土している。この期の須恵器の窯跡は今のところ発見されていないが、当古墳の埴輪の存在を考えれば、出現期は少なくとも築造期と同時期まで遡ることは可能であろう。また、これらの遺跡を特徴づける遺跡として当町北部の新改地区とその周辺に所在する須江古窯群を挙げることができる。

奈良時代から平安時代にかけての須恵器、瓦焼成の窯跡が現在40数カ所確認されている。窯跡の

中には比江廃寺跡[18]の瓦を焼成したタンガン遺跡[19]や土佐国分寺の平瓦を焼成した東谷窯跡[20]も存在し、また新改川左岸の河岸段丘に所在する須江上段遺跡[21]、須江北遺跡[22]からは官衙的掘立柱建物跡や多量の須恵器、土師器が出土している。特に須恵器には湾曲した遺物が混在しており、須恵器生産に係わる遺跡と考えられる。なお、新改、須江地区はその西方２kmに土佐国府を控えていることから国府と密接な結びつきが想定される。

当町南部の沖積平野は高知県最大の平野、香長平野北端部にあたり、広く古代の条里制遺構[21]を残している。また、「大領」・「田倉」・「宮毛田」等の地名があり、周辺からは古代の遺物が表面採集され古代香美郡の郡の推定地[23]と考えられる。

中世では、土佐戦国七雄に数えられる山田氏[24]が建久４年（1193）に土佐国へ入国以来勢力をのばし、楠目の山田城を本拠[25]に領主制支配を行うが、長宗我部氏により天文期頃攻撃を受けて滅亡する。

近世にはいり野中兼山[26]による山田堰、上、中、舟入川の三用水の敷設等による長岡台地の開発により在郷町[27]として香美郡北部の山間地域と南部の平野部との接点として物産集散地となり、高知城城下町の経済圏域として発展し、今日に至る。

註

（１）西谷遺跡『土佐山田史談』第25号「土佐山田町における考古学の成果と課題（Ⅵ）」2000

（２）『奥谷南遺跡Ⅰ』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター　1999

（３）『開キ丸遺跡　新改中部地区圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会　2002

（４）小山田遺跡　註１と同じ

（５）『飼古屋岩陰遺跡発掘調査報告書』日本道路公団・高知県教育委員会　1983

（６）『林田シタノヂ遺跡Ⅱ　農村基盤総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会　1993

（７）『龍河洞』高知県教育委員会　1959

（８）『土佐山田町史』Ｐ52　土佐山田町教育委員会　1979

（９）註８と同じ

（10）註８と同じ

（11）『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－原遺跡－』高知県教育委員会　1982
『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－原遺跡Ⅱ－』第25集　高知県教育委員会　1984

（12）『原南遺跡発掘調査報告書』高知県文化財団　1991

（13）『ひびのき遺跡』土佐山田町教育委員会　1977

（14）『ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書』（土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第８集）土佐山田町教育委員会　1990

（15）『林田遺跡発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会　1985

（16）『伏原大塚古墳』（土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第14集）

土佐山田町教育委員会　1993

(17) 註８と同じ

(18)『高知県文化財調査報告書第16集　高知県比江廃寺跡』高知県教育委員会　1970

『高知県文化財調査報告書第33集　比江廃寺跡発掘調査概報』高知県教育委員会　1991

(19) 註８と同じ

(20)『新改東谷古窯跡群発掘調査』土佐山田町教育委員会　1978

(21)『土佐山田北部遺跡群－山田北部県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書－』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第12集)

(22) 註21と同じ

(23) 岡本健児「土佐神道考古学５」『土佐史談』第120号

(24) 註８と同じＰ217

(25) 註８と同じＰ248

(26) 註８と同じＰ354

(27) 註８と同じＰ365

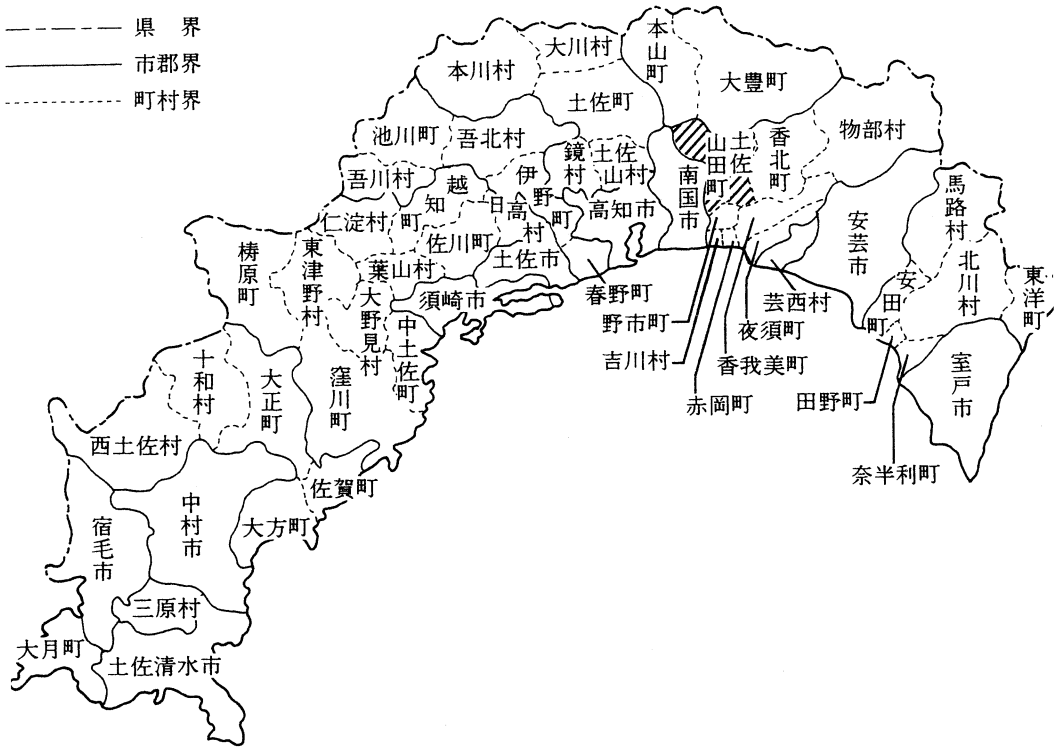


図１　高知県の市町村と土佐山田町の位置

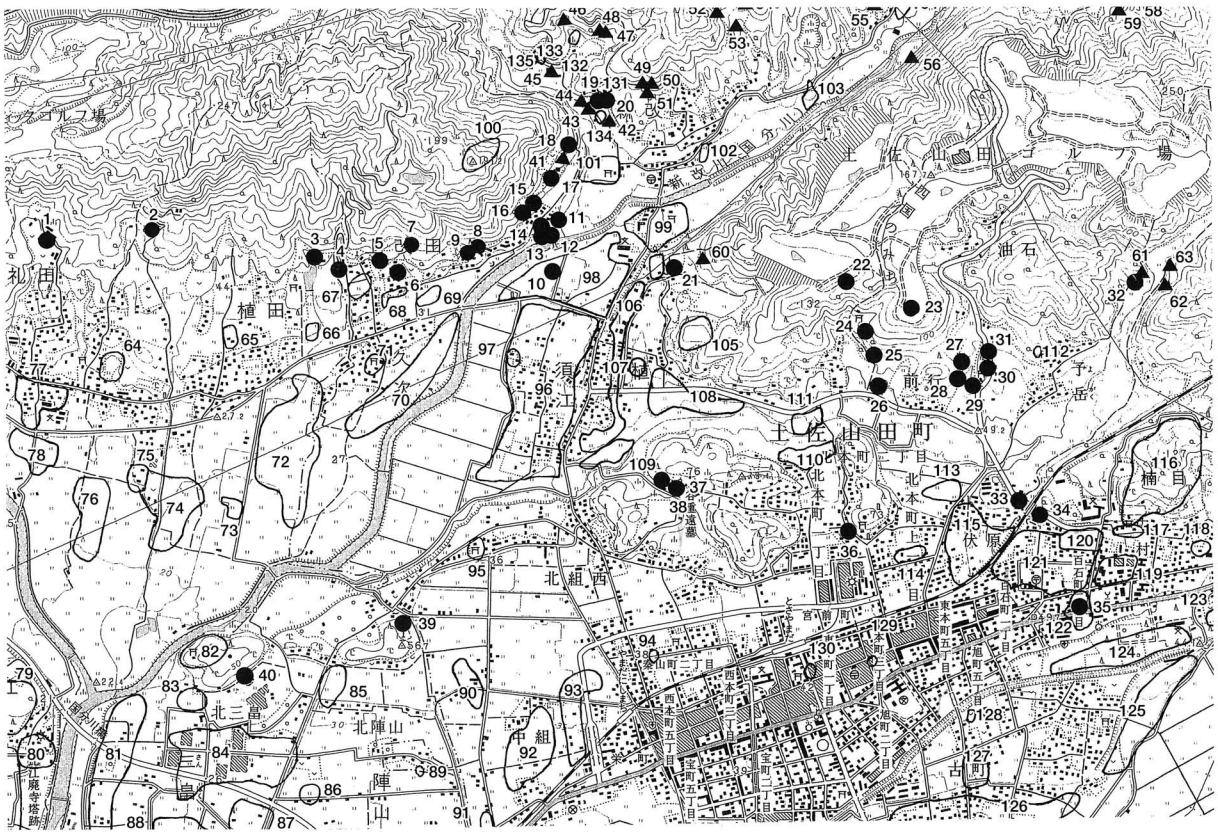


図２　周辺の遺跡分布図

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	中山田古墳	古墳	35	伏原大塚古墳	古墳	69	東山田遺跡	弥生・古墳	103	三反山田窯跡	平安
2	高松古墳	〃	36	八王寺西古墳	〃	70	改田神母遺跡	古墳～平安	104	入野南遺跡	平安・中世
3	植田古墳群	〃	37	前山１・２号古墳	〃	71	久次土居城跡	中世	105	植村城跡	中世
4	西久保古墳	〃	38	前山３号古墳	〃	72	ハザマダ遺跡	古墳～平安	106	植カドタ遺跡	弥生・古墳
5	次郎ケ谷西古墳	〃	39	陣山古墳	〃	73	畑ケ田遺跡	〃	107	植南土居遺跡	平安・中世
6	次郎ケ谷古墳	〃	40	三畠山古墳	〃	74	泉ケ内遺跡	〃	108	西クレドリ遺跡	弥生～近世
7	田村氏古墳	〃	41	西ノ内窯跡	〃	75	沖ノ土居城跡	中世	109	モジリカワ遺跡	〃
8	亀ケ谷１号古墳	〃	42	小山田１号窯跡	古墳・奈良	76	白猪田遺跡	古墳～平安	110	山ノ間丸遺跡	中世
9	亀ケ谷２号古墳	〃	43	小山田２号窯跡	〃	77	中ノ土居城跡	中世	111	植キノサキ遺跡	〃
10	須江ツカアナ古墳	〃	44	小山田３号窯跡	〃	78	前嶋遺跡	平安～中世	112	山田氏累代墓所	〃
11	新改古墳	〃	45	西谷1･2･3窯跡	奈良	79	比江山城跡	中世	113	メウカイ遺跡	弥生～中世
12	新改２号古墳	〃	46	東谷松本窯跡	奈良・平安	80	比江廃寺跡	飛鳥・奈良	114	長谷川丸遺跡	古墳～平安
13	新改３号古墳	〃	47	東谷１号窯跡	〃	81	渕ノ上遺跡	弥生～平安	115	伏原遺跡	弥生～平安
14	新改４号古墳	〃	48	東谷２号窯跡	〃	82	南神母遺跡	古墳	116	楠目城跡	中世
15	椎山１号古墳	〃	49	林ノ谷１号窯跡	〃	83	三畠城跡	中世	117	ひびのき大河内遺跡	弥生～近世
16	椎山２号古墳	〃	50	林ノ谷２号窯跡	〃	84	三畠遺跡	弥生～平安	118	田所神社遺跡	弥生～中世
17	西ノ内１号古墳	〃	51	林ノ谷３号窯跡	〃	85	三町遺跡	古墳～中世	119	ひびのき遺跡	弥生・古墳
18	西ノ内２号古墳	〃	52	大谷１号窯跡	〃	86	白山遺跡	古墳～平安	120	ひびのき岡の神母遺跡	弥生～中世
19	小山田２号古墳	〃	53	大谷２号窯跡	〃	87	水通遺跡	弥生～平安	121	ひびのきサウジ遺跡	弥生～近世
20	小山田２号古墳	〃	54	大谷３号窯跡	〃	88	福重遺跡	奈良～中世	122	大塚遺跡	〃
21	タンガン古墳	〃	55	八ノ谷窯跡	平安	89	有光北鍵山遺跡	平安	123	大西土居遺跡	弥生
22	深坂古墳	〃	56	植セガイ窯跡	古墳～奈良	90	浜道の西遺跡	古墳～平安	124	楠目遺跡	弥生～近世
23	杖坂古墳	〃	57	大法寺二反田窯跡	古墳	91	山田三ツ又西遺跡	〃	125	稲荷前遺跡	〃
24	杖坂東古墳	〃	58	大法寺ヘエスヤジ1号窯跡	奈良・平安	92	山田三ツ又遺跡	〃	126	原遺跡	弥生～近世
25	中沢古墳	〃	59	大法寺ヘエスヤジ2号窯跡	〃	93	山田三ツ又東遺跡	弥生～中世	127	古町西遺跡	弥生～平安
26	溝渕古墳	〃	60	タンガン窯跡	飛鳥	94	谷重遠邸跡	近世	128	古町北遺跡	弥生・古墳
27	桜ケ谷古墳	〃	61	予岳窯跡	古墳	95	野中神社	近世	129	公儀の井戸２	近世
28	前行山１号古墳	〃	62	長谷山１号窯跡	平安	96	須江上段遺跡	古墳～近世	130	公儀の井戸１	〃
29	前行山２号古墳	〃	63	長谷山２号窯跡	〃	97	須江駅跡	平安	131	松本山長久寺跡	中世・近世
30	母神古墳	〃	64	東ノ土居遺跡	古墳～中世	98	須江北遺跡	古墳～平安	132	勝福寺跡	〃
31	大元神社古墳	〃	65	植田土居城跡	〃	99	薬原神社遺跡	奈良～中世	133	勝楽寺跡	〃
32	大元神社北古墳	〃	66	寺中遺跡	古墳～平安	100	改田氏物見の城跡	中世	134	小山田遺跡	縄文･古代･中世
33	与岳古墳	〃	67	北野遺跡	古墳～中世	101	南ケ内遺跡	弥生～中世	135	西谷遺跡	旧石器
34	小倉山古墳	〃	68	辻谷田遺跡	古墳～平安	102	屋甫田丸遺跡	中世			

表１　須江上段遺跡周辺の遺跡一覧

第Ⅱ章　調査に至る経過

1．調査に至る経過

近年、農業の規模拡大等の整備政策が進められ、農業構造改善事業として、圃場整備事業が行なわれている。当新改地区においても改良組合が設立され、山田北部地区土地改良、新改西部土地改良、新改中部土地改良と設立され、県営圃場整備事業が計画、実施されている。

山田北部土地改良区内は埋蔵文化財包蔵地に相当する箇所であり、土佐山田町教育委員会は工事計画との調整資料を得るため、昭和63・平成元・2・3年度に文化庁国庫補助金により遺構の範囲確認のための試掘調査を実施し、基礎データを得た。その後、事業施工による埋蔵文化財の保存協議を高知県南国耕地（現中央耕地）事務所、山田北部地区土地改良区、土佐山田町教育委員会の三者で協議した。その結果、盛土工法等による計画変更がなされたが一部施工計画が変更できない箇所について、遺構の記録保存を図る調整協議がされ、記録保存のための発掘調査を実施した。

本調査の対象である須江上段遺跡は農地より多数の須恵器片が表面採集でき、また四国電力鉄塔建設に伴う発掘調査により弥生時代、古代の遺構が確認されており発掘調査を実施するに至った。

2．調査の方法

試掘調査の結果により、水路、農道、削平部の調査区を設定し、耕作土等の表土を主に重機により除去を行ない、遺構検出面または、遺物包含層直上まで掘削を行なった後、人力による精査を行なった。遺構、遺物の出土状況及び土層等については、写真撮影を行なった後、平面図及び断面図を作成した。遺物の取り上げ、遺物の実測については、任意座標に基づいて地区全体に４ｍ方眼をかけ記録、実測を行なった。平面実測、及び地層断面については、20分の１を基本とし、必要に応じて10分の１の実測を行なった。

図３　発掘調査区　住居図

第Ⅲ章　調査成果

第１節　１区の調査成果

（１）層序

土層観察は第１調査区第３区の北壁、東壁で行った。基本土層観察は北壁で行い、東壁は北壁と整合性が取れるようにした。基本土層は第１層は12cmから16cmの表土（耕作土）、第２層は30cmから45cm程度の遺物包含層で場所により50cmに達する所もあるが20cm程度のところもみられる。第３層は地盤で小さな礫を含む。

（２）遺構と遺物

遺構については、第１調査区第３・４・５・６・７区に集中している。全般に第１層の表土以下に第２層の遺物包含層があり、第３層の面で遺構は検出できた。

今回の遺構で確認された遺構のうち、竪穴式住居跡１棟、掘立柱建物跡１棟、土壙４基、溝跡９条、ピット多数について遺物が出土している遺構について報告する。

（１）竪穴式住居跡

ＳＴ－１（図５）

第１調査区第７区の中央部に位置している。住居跡は東西直径約６ｍ、南北直径約14.5m、深さ15cm～20cmを測る。遺構は後世の削平をうけ浅い。炉跡は調査区のバンクにより確認できなかったが住居跡内には20cm～30cmの柱穴を有する。住居跡内西側には溝跡がみられる。床面は張り床で、床面上より弥生土器の壺（６．７．10．27．30）、甕（33）、手づくね土器（10．28）、石斧（４）粗製石包丁らしい石器（図示していない。）が出土している。

（２）掘立柱建物跡

ＳＢ－１（図４）

第１調査区第７区の北部に位置している。規模は梁間１間（４ｍ）以上、桁行３間（6.5m）以上の建物跡である。桁行（南北）の柱間寸法は２ｍ～2.2mであり、柱穴は円形で、直径約70cm～80.5cm、深さ30cm～60.5cmである。根石は確認されていない。

遺物は柱穴内より須恵器、土師器の破片が出土しているが図示できるものはない。

（３）土坑

ＳＫ－１（図４）

第１調査区第６区の西南に位置する。長い楕円形を呈した遺構である。最大直径32cm、深さ35cm～40cmを測る。

（4）溝

ＳＤ－１（図４）

第１調査区第２区の北側に位置する。東西に走り長さ約10.9m、幅約0.63m、深さ約0.4mを測る。遺構内より土師器片が出土しているが図示できない。

ＳＤ－２（図４）

第１調査区第７区の中央部に位置する。東西に走り底部は西側に傾斜する。長さ約11m、幅約0.6m、深さ約0.6mを測る。遺構内より須恵器片、土師器片が出土している。図示できる遺物はない。

（5）ピット（図４）

第１調査区第１・４・５・６区の調査区内のピット内より土師器、須恵器の細破片が出土しているが図示できる遺物はない。

（6）性格不明遺構（図４）

ＳＸ－１

第１調査区第７区の北側の西部分に位置する。遺構の形状はお多福状の形状を成す。南北約6.5m、東西約４m、深さ0.15mを成す。床面より須恵器の蓋（１）と甕の口縁部（３）、土師器は蓋（８）、杯（24）が出土している。

（7）包含層出土遺物

Ⅰ・Ⅱ区の包含層より良好な遺物が出土している。次節で述べる。

第２節　Ⅰ・Ⅱ区調査の遺物

（1）包含層遺物

調査区はⅠ区、Ⅱ区に別れ北側がⅠ区でその南側にⅡ区が位置している。遺物包含層は基本土層観察では第２層となり以下報告する遺物の取り上げを行なった。

Ⅰ区

第１分類　須恵器（碗）（遺物観察表番号20．29．79．80）

碗の底部は回転篦により切り離され、しっかりしたハの字状の張付き高台または、シャープな高台がつく。胴部は斜上方に立ち上がり口縁部にいたる。口縁部はやや外反し、丸くおさめる。胎土は精選された粘土を使用している。法量は平均して口径13cm～16cm内外、器高４cmから６cm内外である。底部内面はナデがみられ、内外面ともに回転ロクロによる横ナデ調整がほどこされている。一部焼成不良もあるが全体として焼成は良好な遺物が多い。

第２分類　須恵器（杯）（遺物観察表番号75）

杯の胎土は精選された粘土で底部外面は回転篦削りで底部から外上方に上がり胴部でやや立ち上がり、口縁の端部は丸い。内外面ともにロクロによる回転ナデによる調整が施される。底部は平底である。焼成は良好である。

第３分類　須恵器（皿）（遺物観察表番号32．76．77．83．84）

精選された胎土の粘土で内外ともに回転ロクロによる横ナデ調整が施される。ベタ底で、底部より斜上方に外反し、立ち上がり口縁部にいたる。先端は丸くおさめる。

第４分類　土師器（杯）（遺物観察表番号12．65．66．67．69）

胎土は精選された粘土で内外面ロクロによる横ナデ調整がなされ、底部はベタ底で外面は静止篦切りである。胴部は短く口唇は丸い。

第５分類　土錘（遺物観察表番号16．17．18．19．68．81）

すべて土師質製で胎土は精選された物と石英、砂粒をやや多く含むものがある。全長3.4cm～7.9cm、幅は1.5cm～6.0cmを測る。

第６分類　須恵器（蓋）（遺物観察表番号１．2．31）

胎土は精選された粘土を使用している。法量は平均して蓋の口径15cm～16cm内外、器高2.7cmから3.0cm内外である。内面は回転ナデがみられ、内外面ともに回転ロクロによる横ナデ調整がほどこされている。焼成は良好な遺物が多い。蓋には丸い扁平な摘みをもつ。

第７分類　土師器（甕）（遺物観察表番号21．26．78．82）

胎土は石英、砂粒を多く含む。口縁部は厚みをもち、外反する。胴部はほぼ垂直状態であり内外ともに横ナデ調整がみられる。外面には縦に刷毛目による調整が施される。焼成はおおむね良好である。

第８分類　土師器（皿）（遺物観察表番号11）

胎土は精選された粘土で内外面ロクロによる横ナデ調整がなされ、底部はベタ底で外面は静止篦切りである。胴部は短く口唇は丸い。

第９分類　須恵器（高杯）（遺物観察表番号13）

脚部の破片で胎土は精選された粘土で内面は回転横ナデ、外面は篦と横ナデによる調整がみられる。

第10分類　土師器（高杯）（遺物観察表番号22．34．71．72．73）

高坏の脚部の破片である。多角形を有する脚部が多い。胎土は精選された粘土を使用し、内面は回転横ナデ、外面は一部、篦による調整が見られる。杯の接合部である天井部は一段高く膨らみ篦による平らな調整により仕上げている。

第11分類　須恵器（壺）（遺物観察表番号５）

胎土は精選された粘土から石英、小石を含むものとさまざまである。短口壺は外面、内面ともにロクロによる回転横ナデ調整である。肩部はしっかりと張り、胴部は底部に向かって窄まる。

第12分類　その他の遺物

（１）石器

石斧（遺物観察表番号15）は刃部が欠落している。叩石（遺物観察表番号70）は閃緑岩製である。砥石（遺物観察表番号14）は砂岩製である。

（２）金属製品

玉（遺物観察表番号24．74）は鉛玉である。

Ⅱ区

第１分類　須恵器（碗）（遺物観察表番号37．39．57．60．64）

碗の底部は回転篦により切り離され、しっかりしたハの字状の張付き高台または、シャープな高台がつく。胴部は斜上方に立ち上がり口縁部にいたる。口縁部はやや外反し、丸くおさめる。胎土は精選された粘土を使用している。法量は平均して口径13cm～16cm内外、一部20cmを測る物

がある。器高４cmから５cm内外である。底部内面はナデがみられ、内外面ともに回転ロクロによる横ナデ調整がほどこされている。一部焼成不良もあるが全体として焼成は良好な遺物が多い。

第２分類　土師器（碗）（遺物観察表番号41）

胎土は精選された粘土で内外面ロクロによる横ナデ調整がなされ、底部はハの字に高台が広がる。

第３分類　土師器（盤）（遺物観察表番号61）

胎土は精選された粘土を使用する。内外面共に回転ロクロによる調整が施される。焼成は非常に良好である。

第４分類　須恵器（蓋）（遺物観察表番号38．44．45．47．48．61．62）

胎土は精選された粘土を使用している。法量は平均して蓋の口径14cm～15cm内外、器高2.0cmから3.0cm内外である。内面は回転ナデがみられ、内外面ともに回転ロクロによる横ナデ調整がほどこされている。焼成は良好な遺物が多い。蓋の天井部上には丸い扁平な摘みをもつ。

第５分類　土師器（甕）（遺物観察表番号53．55）

胎土は石英、砂粒を多く含む。口縁部は厚みをもち、口径20cmを測る。外反する。胴部はほぼ垂直状態であり内外ともに横ナデ調整がみられる。外面には縦に刷毛目による調整が施される。焼成は良好である。

第６分類　土師器（蓋）（遺物観察表番号59．63）

胎土は精選された粘土で内外面ロクロによる横ナデ調整が施されている。口径は14cm～20cmを測る。蓋端部の口唇は丸い。蓋の天井部の上に丸い扁平のつまみをもつ。

第７分類　須恵器（高杯）（遺物観察表番号52．54）

脚部の破片で胎土は精選された粘土で内面は回転横ナデ、外面は箆と横ナデによる調整がみられる。

第８分類　土師器（高杯）（遺物観察表番号40．42．43．49．51．58）

高坏の脚部の破片で多角形である。胎土は精選された粘土で内面は回転横ナデ、外面は一部、箆による調整が見られる。杯の接合部は天井部は一段高く膨らみ箆による平らな調整によりしあげている。焼成は非常に良好である。

第９分類　須恵器（壺）（遺物観察表番号46）

胎土は石英、小石をを多く含む。壺の口縁部は外面、内面ともにロクロによる回転横ナデ調整

である。一部叩き目による調整がみられる。肩部はしっかりと張り、胴部は底部に向かって窄まる。胴部内面には青海波紋の叩き目による調整がありそれを横ナデによる擦り消しの調整をおこなっている。焼成は良好である。

第10分類　土師器（碗）（遺物観察表番号56）

胎土は精選された粘土を使用している。内外面共にロクロによる調整を施している。

第11分類　その他の遺物

（1）瓦器（遺物観察表50）

底部は丸底で全体の厚みは薄い。胴部から口縁部にかけて黒色を成す。焼成は良好で胎土は精緻である。

（2）陶磁器

図示はしていない。遺物は壁が半田による構造の野トイレと思われる遺構より陶磁器が出土しているが近世から近代に属する陶磁器ため図示していない。

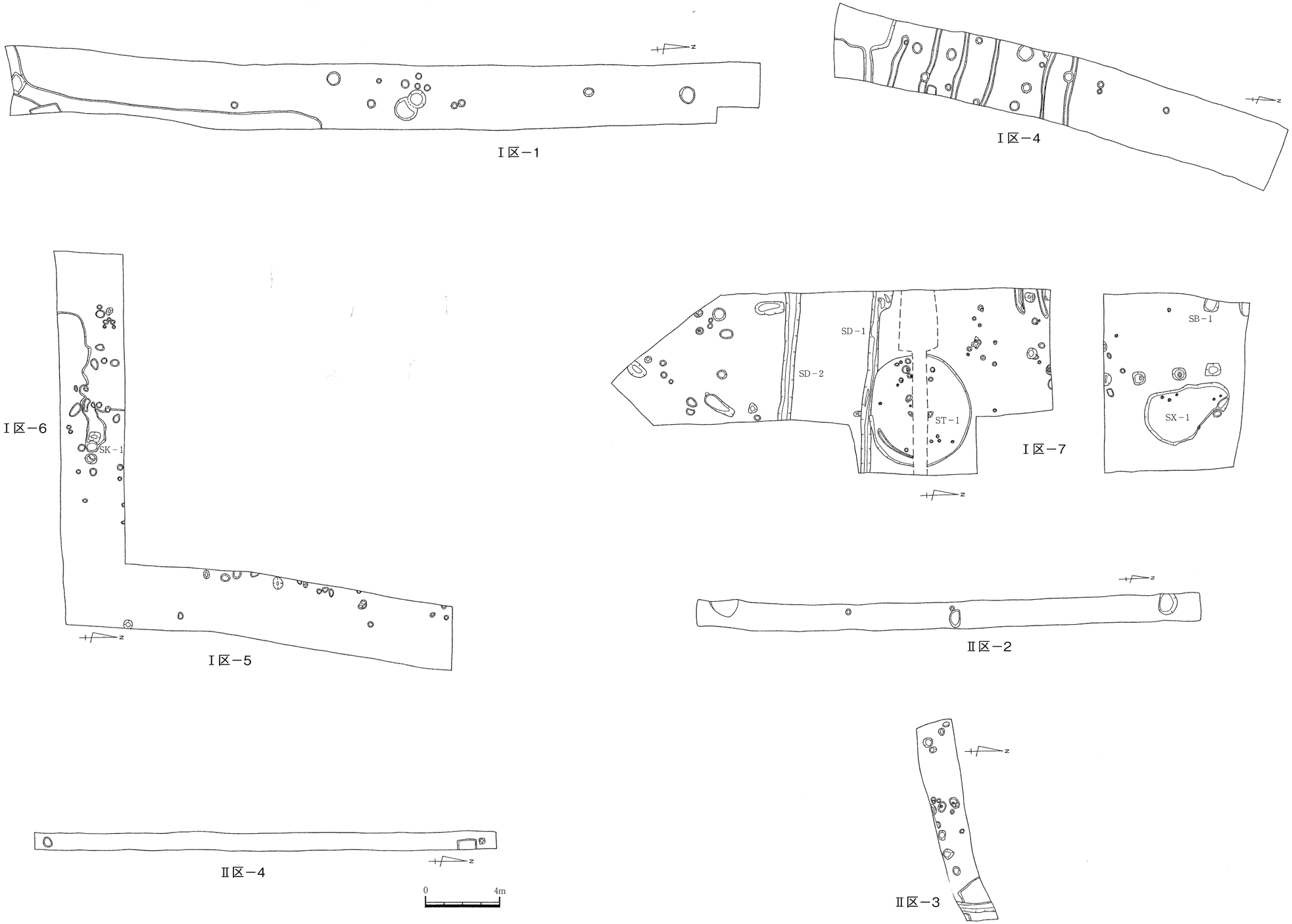


図４　発掘調査区　平面図

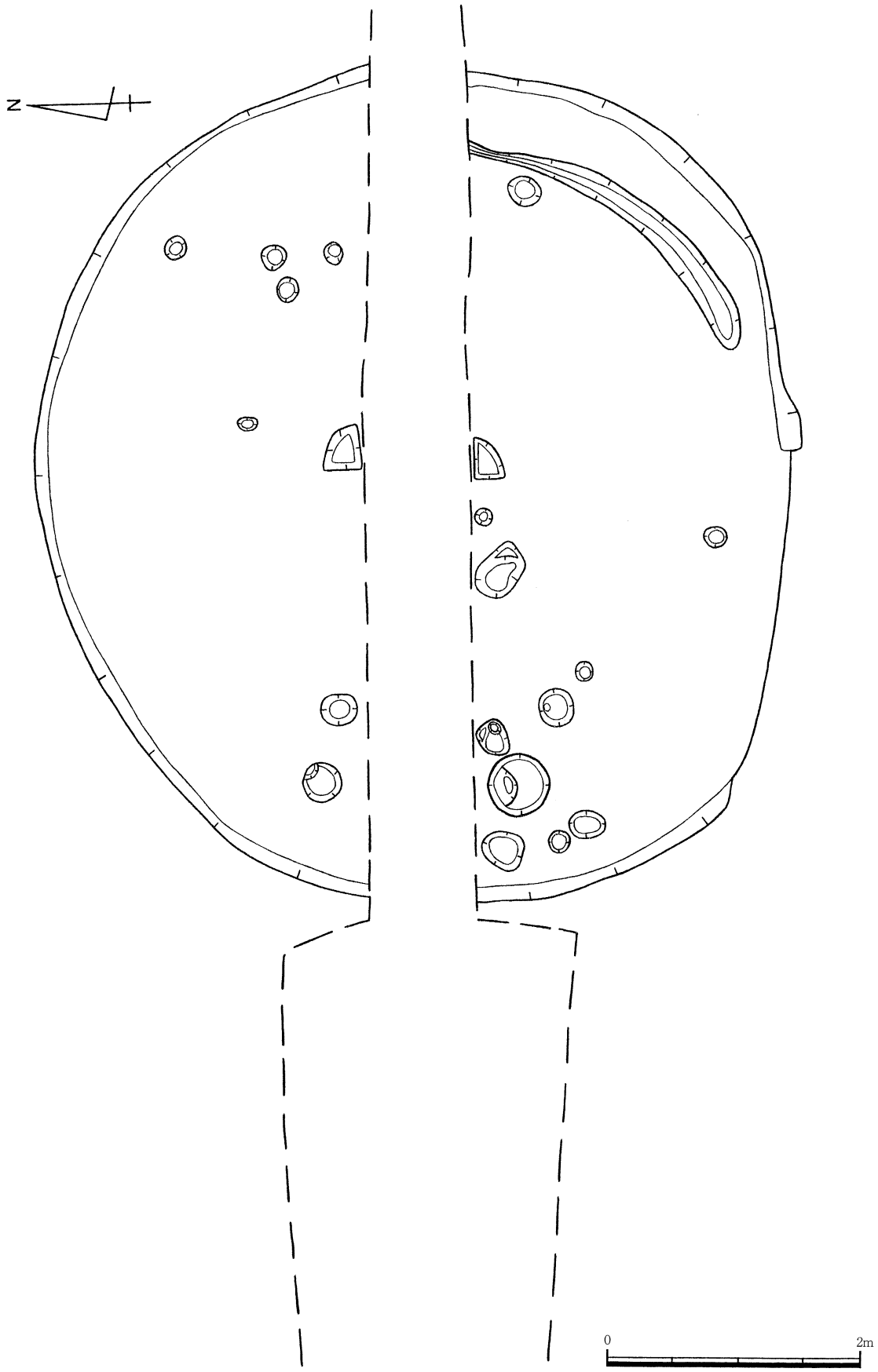


図５　第１調査区第７区 ST－1 平面図

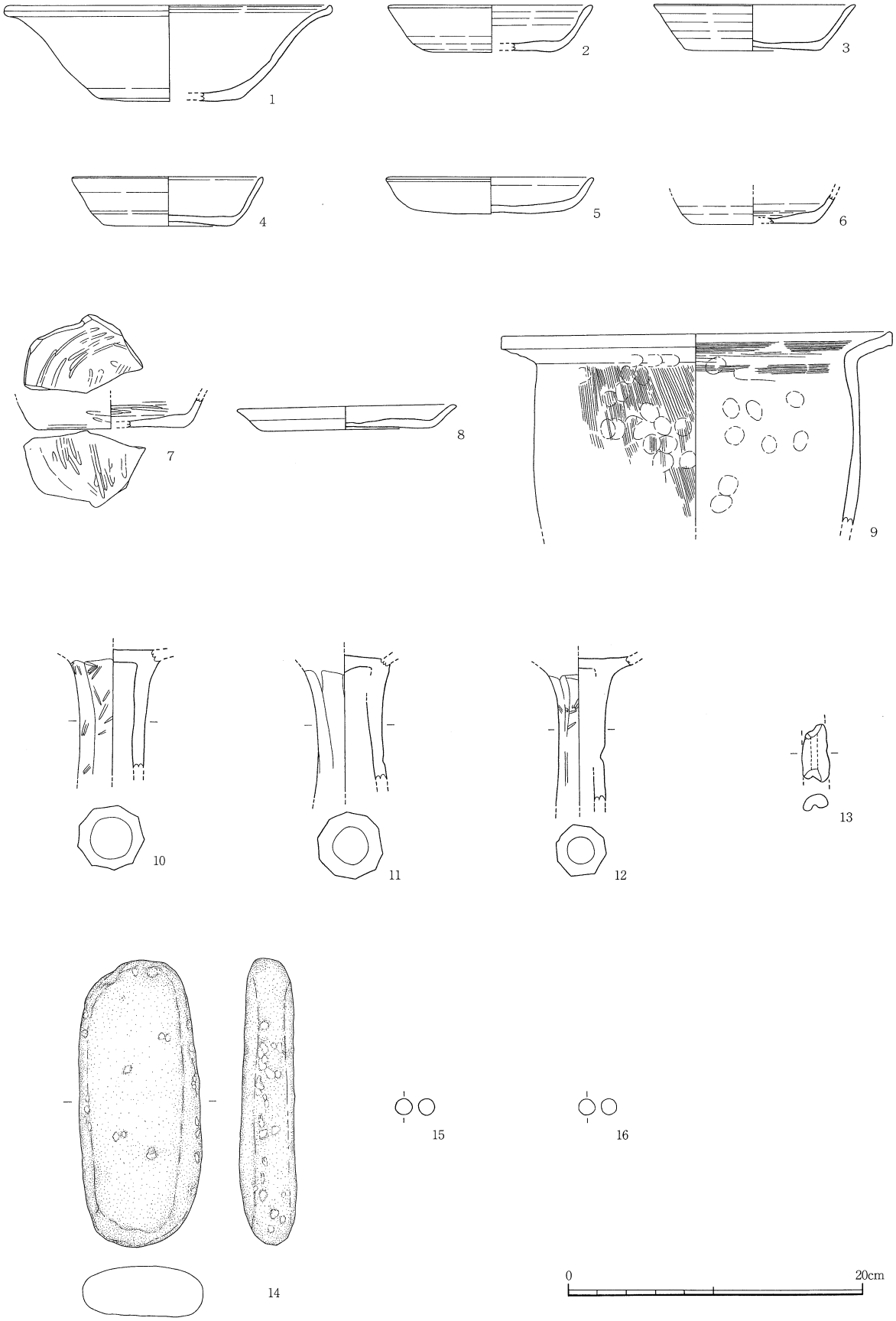


図6　遺物実測図（Ⅰ区調査区5）

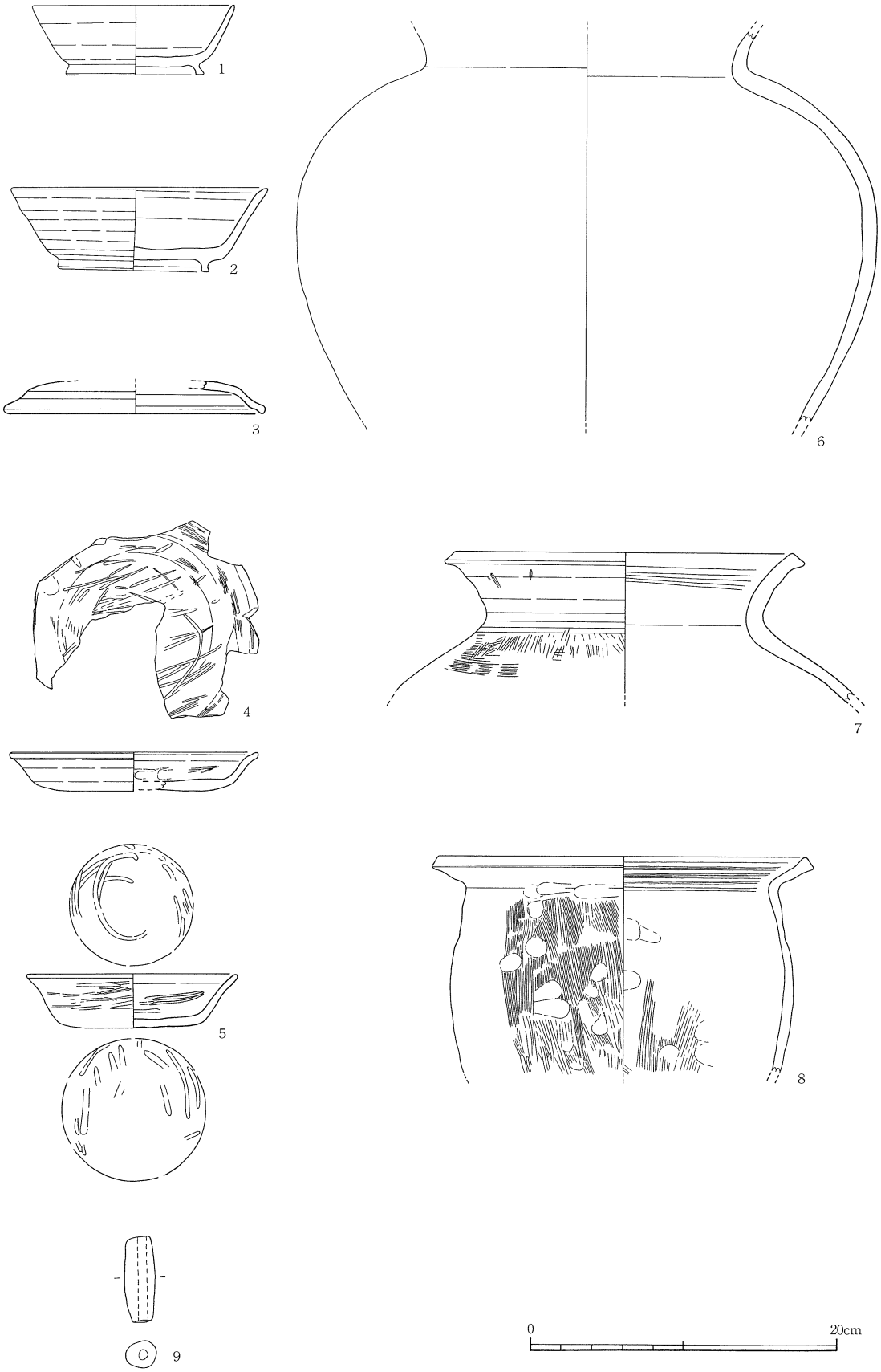


図７　遺物実測図（Ⅰ区調査区６）

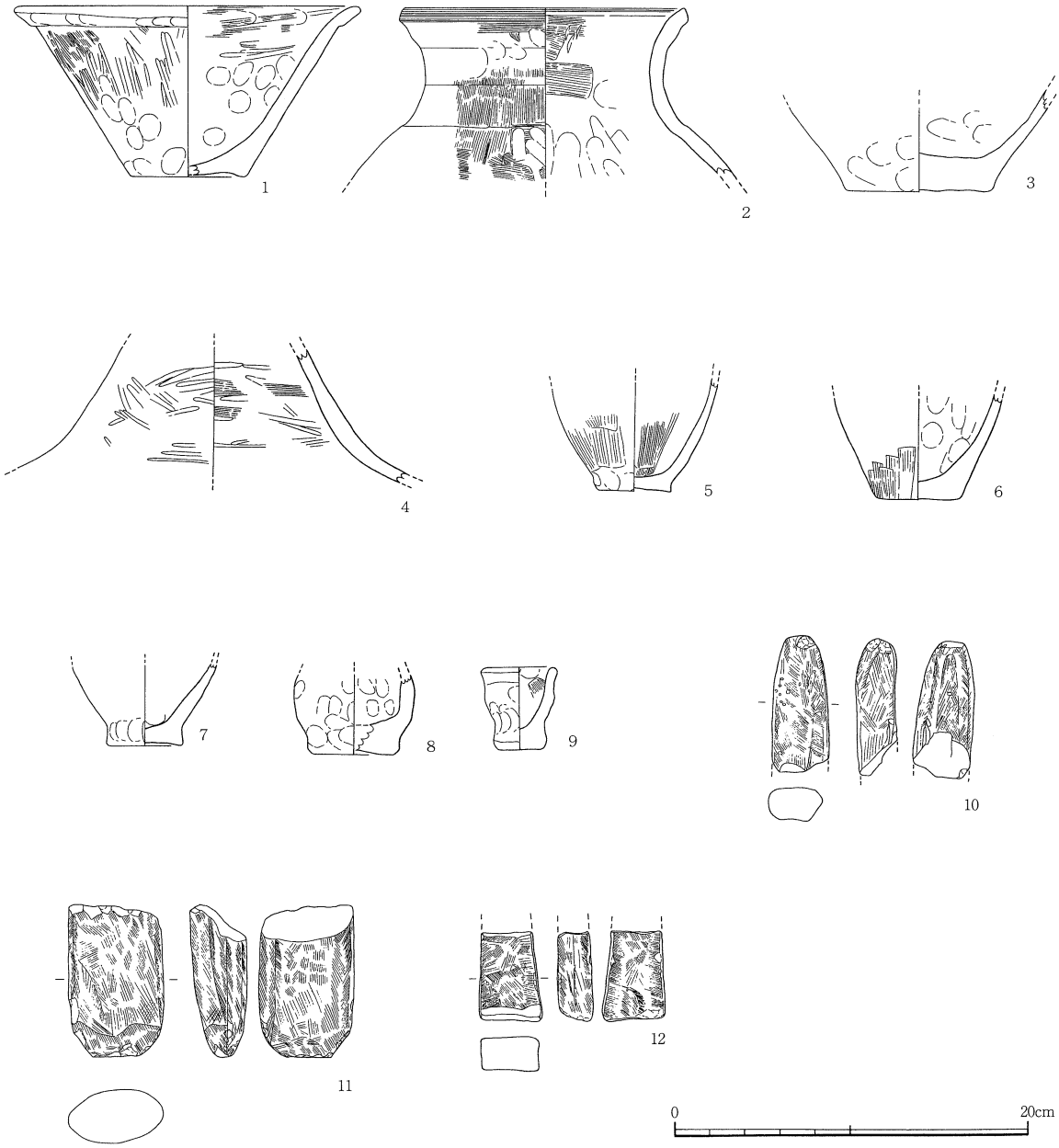


図８　遺物実測図（Ⅰ区調査区７－①）

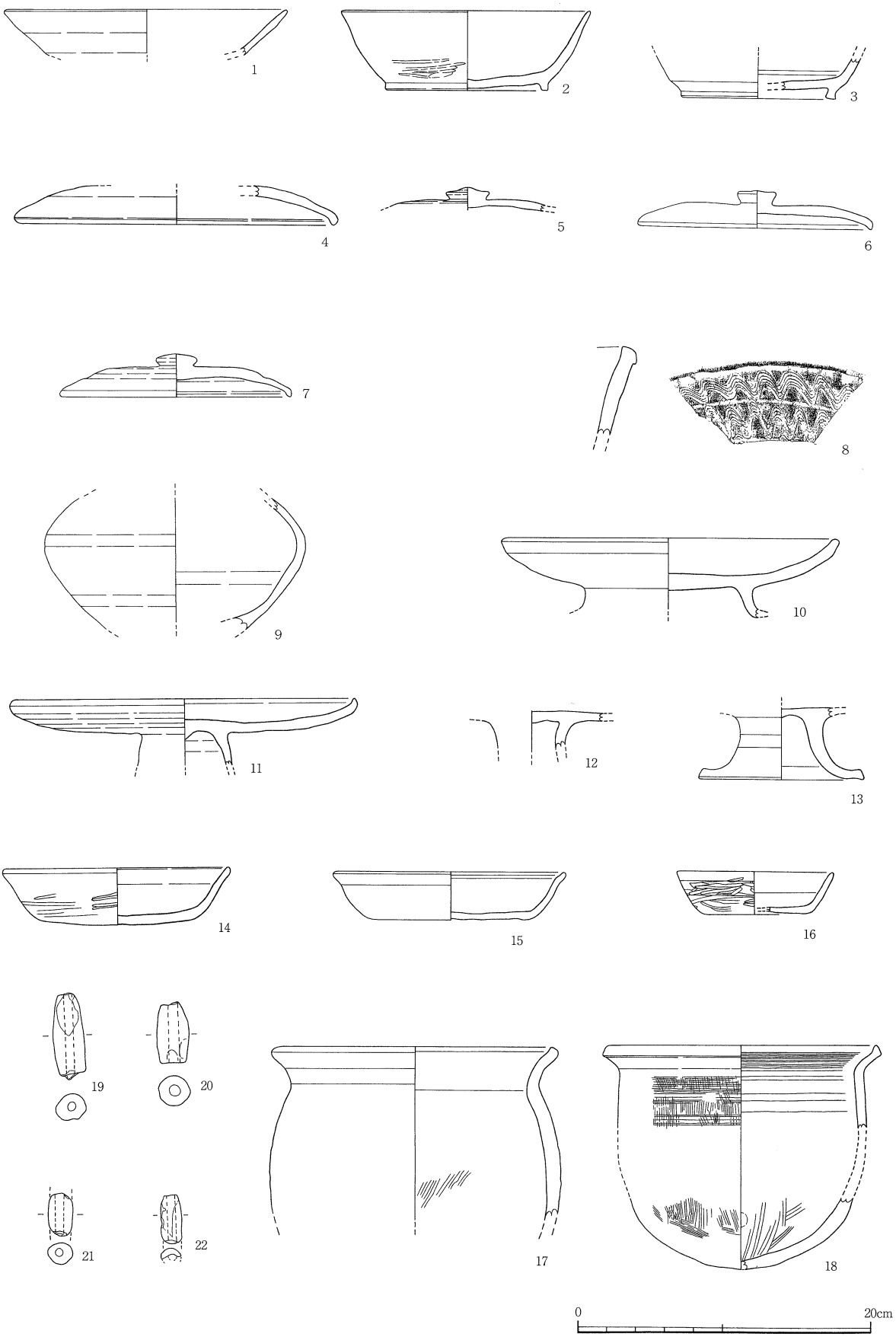


図９　遺物実測図（Ⅰ区調査区７－②）

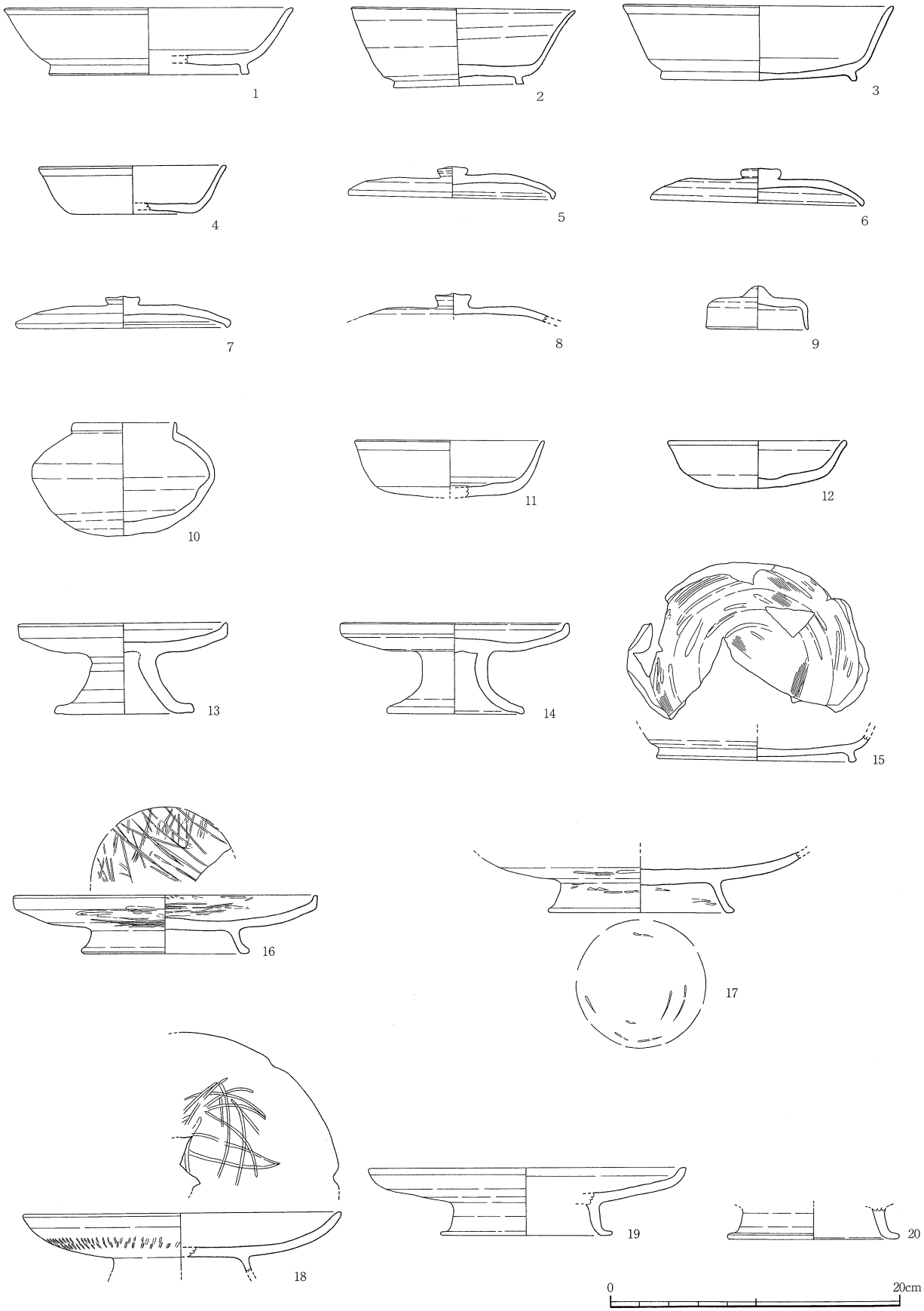

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
0
20cm

図10　遺物実測図（Ⅱ区調査区１）

実測No.	図No.	写真No.	出土地点 遺構・層位	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	特徴 成形／調整／その他
1	9-6	24	ST-1	蓋	須恵器	16.2	2.7		精選された胎土	良	内面：7.5Y8/1灰白 外面：5Y8/1灰白 断面：	回転ナデ
2	9−7	23	SK−1	蓋	須恵器	15.8	3.0		精選された胎土	良	内面：2.5Y6/2灰黄 外面：2.5Y6/1黄灰 断面：	回転ナデ
3	9−8	54	SK−1	甕 (口縁部)	須恵器				精選された胎土	良	内面：2.5Y4/2暗灰黄 外面：5Y6/2灰オリーブ 断面：2.5Y6/2灰黄	回転ナデ
4	8−11	79	ST−1	石斧	石器	8.9 全長	5.5 全幅	3.1 全厚			内面： 外面： 断面：	
5	9−9	52	Ⅱ層	壷 (胴部)	須恵器				精選された胎土	良	内面：2.5Y6/1黄灰 外面：N6/灰 断面：	内外面ロクロ回転ナデ
6	8−5	34	ST−1	壷 (底部)	弥生土器			4.2	精選された胎土	不良	内面：10YR8/3浅黄橙 外面：10YR7/4にぶい黄橙 断面：	横ナデ
7	8−3	32	ST−1	壷 (底部)	弥生土器			8.0	精選された胎土	良	内面：10YR7/4にぶい黄橙 外面：5Y7/6 断面：	横ナデ
8	9−4	66	ST−1	蓋	土師器	11.6			精選された胎土	良	内面：7.5YR6/8橙 外面：7.5YR6/8橙 断面：	内外面ロクロ回転ナデ
9	8−2	33	ST−1	壷	弥生土器	16.0			精選された胎土	良	内面：10YR8/3浅黄橙 外面：10YR8/4浅黄橙 断面：	横ナデ
10	8−9	28	ST−1	手づくね 土器	弥生土器	4.0	4.8	2.4	精選された胎土	良	内面：10YR8/4浅黄橙 外面：7.5YR8/4浅黄橙 断面：	横ナデ
11	7−4	38	SK−1	皿	土師器	16.2	2.6	9.0	精選された胎土	良	内面：7.5YR6/4にぶい橙 外面：7.5YR6/4にぶい橙 断面：	内外面ロクロ回転ナデ 回転ヘラ切
12	9−1	68	Ⅱ層	杯	土師器	19.4			精選された胎土	良	内面：2.5Y7/4浅黄 外面：2.5Y7/4浅黄 断面：	内面ロクロナデ
13	9−13	39	Ⅱ層	高杯 (脚部)	土師器		5.0	11.2	精選された胎土	良	内面：2.5Y6/2灰黄 外面：10YR7/4にぶい黄橙 断面：5YR6/6橙	
14	8−12	77	Ⅱ層	砥石	石器	5.2 全長	3.6 全幅	2.1 全厚			内面： 外面： 断面：	
15	8−10	78	Ⅱ層	石斧	石器	7.9 全長	3.6 全幅	2.5 全厚			内面： 外面： 断面：	
16	9−20	81	Ⅱ層	土錘	土師質	4.3 全長	2.3 全幅				内面：10YR6/3にぶい黄橙 外面： 断面：	
17	9−21	85	Ⅱ層	土錘	土師質	3.0 全長	1.8 全幅		精選された胎土	不良	内面： 外面：5YR6/6橙 断面：	
18	9−22	84	Ⅱ層	土錘	土師質	3.4 全長	1.5 全幅		精選された胎土	不良	内面： 外面：7.5YR7/6橙 断面：	
19	9−19	82	Ⅱ層	土錘	土師質	6.0 全長	2.2 全幅		精選された胎土	不良	内面： 外面：10YR7/4にぶい黄橙 断面：	
20	9−3	64	SK−1−1	碗	土師器			10.4 (推定)	精選された胎土	良	内面：7.5YR7/6橙 外面：7.5YR7/6橙 断面：2.5Y5/1黄灰	
21	9−17	48	Ⅱ層	甕	土師器	19.8			精選された胎土	良	内面：7.5YR6/4にぶい橙 外面：7.5YR6/4にぶい橙 断面：	内外面回転ロクロ横ナデ調整
22	9−12	73	Ⅱ層	高杯	土師器				精選された胎土	不良	内面：5YR6/4にぶい橙 外面：7.5YR6/4にぶい橙 断面：2.5YR6/6橙	全体に摩耗激しく調整不明
23	6−15	87	Ⅱ層	玉	鉛	1.2 全長	1.2 全幅	1.1 全厚			内面： 外面：	
24	9−14	13	SX−2	杯	土師器	15.6 (推定)	4.0	4.7	精選された胎土	不良	内面：7.5YR6/4にぶい橙 外面：5YR6/6橙	内外面ロクロ回転ナデ 横ベタ底
25	9−16	11	SK−1	杯	土師器	10.7	3.0	6.8	精選された胎土	不良	内面：7.5YR6/6橙 外面：7.5YR6/6橙	内外面ロクロ回転ナデ 横ナデベタ底
26	9−18	49	Ⅱ層	甕	土師器	18.3	15.5		精選された胎土	良	内面：5YR6/6橙 外面：7.5YR6/6橙 断面：5YR6/6橙	内外面ロクロ横ナデ
27	8−7	27	ST−1	壷	弥生土器			4.1	精選された胎土	不良	内面：7.5YR6/6橙 外面：5YR6/6橙	
28	8−8	29	SD−1	手づくね 土器	弥生土器			4.6	精選された胎土	良	内面：7.5YR6/4にぶい橙 外面：7.5YR6/3にぶい褐	
29	9−2	12	Ⅱ層	碗	土師器	16.9	5.5	11.0	精選された胎土	良	内面：10YR7/4にぶい黄橙 外面：7.5YR6/4にぶい橙	内外面ナデ仕上げ ロクロによる調整
30	8−6	31	ST−1	壷	弥生土器			4.6	精選された胎土	良	内面：10YR6/2灰黄褐 外面：10YR8/3浅黄橙	
31	9−5	51	SK−1	蓋	須恵器				精選された胎土	良	内面：5Y7/2灰白 外面：5Y7/2灰白	外内面ナデ仕上げ 焼成による歪み少し有り

表2　遺物観察表

実測No.	図No.	写真No.	出土地点 遺構・層位	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	特徴 成形／調整／その他
32	9－15	14	Ⅱ層	杯	土師器	16.1	3.3	10.2	精選された胎土	不良	内面：10YR6/2灰黄褐 外面：10YR6/2灰黄褐 断面：	外内面ナデ仕上げ
33	8－1	74	ST－1	甕	弥生土器	19.4	9.8	6.6	精選された胎土	不良	内面：5YR7/4にぶい橙 外面：2.5Y/1黄灰 断面：	内面ナデ仕上げ
34	9－11	61	ST－1	高杯	土師器	23.6			精選された胎土	良	内面：5YR6/6橙 外面：5YR6/6橙 断面：	底部外面回転横ナデ 底部内面中央ナデ
35	8－4	63	Ⅱ層		土師器				精選された胎土	良	内面：10YR7/4にぶい黄橙 外面：10YR7/4にぶい黄橙 断面：	内面横ナデ
36	9－10	50	ST－1	盤	土師器	23.4			精選された胎土	良	内面：5YR5/6明赤褐 外面：5YR6/6橙 断面：	内外面ﾅﾃﾞ仕上げ
37	10－11	1	Ⅱ層	杯	須恵器	13.4	4.0	9.1	精選された胎土	良	内面：5Y5/2灰オリーブ 外面：7.5Y5/1灰 断面：	外面ヘラ、回転横ナデ 内面回転横ナデ 焼成による歪み少し有り
38	10－7	19	Ⅱ層	蓋	須恵器	15.2	2.2		精選された胎土	良	内面：5Y6/1灰 外面：5Y6/1灰 断面：	内外面横ナデ／外面ヘラ 天井頂部つまみ
39	10－1	7	Ⅱ層	碗	土師器	20.2	4.7	14.0	精選された胎土	良	内面：5YR6/6橙 外面：5YR6/6橙 断面：	内外面横ナデ 外面ヘラ
40	10－19	58	Ⅱ層	高杯	土師器	22.2	4.7	11.9	精選された胎土	良	内面：10YR7/6明黄褐 外面：7.5YR7/6橙 断面：	外面ヘラ、横ナデ 内面回転横ナデ
41	10－15	17	Ⅱ層	碗	土師器			13.6	精選された胎土	良	内面：7.5YR6/6橙 外面：5YR6/6橙	外面ヘラ、横ナデ 内面回転横ナデ
42	10－17	43	Ⅱ層	盤	土師器			12.6	精選された胎土	良	内面：5YR6/8橙 外面：5YR6/8橙 断面：	外面ヘラ、横ナデ 内面回転横ナデ
43	10－16	42	Ⅱ層	盤	土師器	21.2	4.2	11.6	精選された胎土	良	内面：5YR6/6橙 外面：5YR6/6橙 断面：	外面ヘラ、回転横ナデ 内面横ナデ
44	10－8	65	Ⅱ層	蓋	土師器				精選された胎土	良	内面：5YR6/6橙 外面：7.5YR6/4にぶい橙 断面：	外面ヘラ、横ナデ 内面回転横ナデ
45	10－14	41	Ⅱ層	高杯	須恵器	16.0	6.4	9.6	精選された胎土	良	内面：2.5Y7/2灰黄 外面：5Y7/1灰白 断面：	外面ヘラ、横ナデ 内面回転横ナデ
46	10－10	26	Ⅱ層	壷	須恵器	7.2	8.0	2.0	精選された胎土	良	内面：5Y6/1灰 外面：5Y6/1灰 断面：	外面ヘラ、横ナデ 内面回転横ナデ
47	10－5	20	Ⅱ層	蓋	須恵器	14.4	2.2		精選された胎土	良	内面：5Y6/1灰 外面：7.5Y6/1灰 断面：	外面ヘラ、横ナデ 内面横ナデ
48	10－9	22	Ⅱ層	蓋	須恵器	7.0	3.0		精選された胎土	良	内面：2.5Y5/1黄灰 外面：5Y5/1灰 断面：	
49	10－20	59	Ⅱ層	高杯 脚	土師器			11.8	精選された胎土	良	内面：10YR6/3にぶい橙 外面：10YR6/3にぶい橙 断面：	内外面ロクロ回転横ナデ
50	10-25	25	Ⅱ層	碗	瓦器	15.6	5.4	5.6	精選された胎土	良	内面：N4／灰 外面：N5／灰 断面：	内外面ヘラ、回転横ナデ 焼成ゆがみ
51	10-28	57	Ⅱ層	高杯 皿部	土師器	25.4			精選された胎土	不良	内面：7.5YR7/4にぶい橙 外面：7.5YR7/4にぶい橙 断面：	横ナデ 内外面横ナデ
52	10－13	40	Ⅱ層	高杯	土師器	14.8	6.4	9.8	精選された胎土	良	内面：7.5YR7/4にぶい橙 外面：7.5YR7/4にぶい橙 断面：	外面ヘラ、横ナデ 内面回転横ナデ
53	10-22	46	Ⅱ層	甕	土師器	27.1			精選された胎土	良	内面：10YR6/4にぶい橙 外面：10YR7/4にぶい橙 断面：	
54	10-24	69	Ⅱ層	高杯 脚部	土師器				精選された胎土	良	内面：5YR6/6橙 外面：5YR6/6橙	外面ヘラ、横ナデ 回転ナデ
55	10-21	75	Ⅱ層	甕	土師器	20.3			精選された胎土	良	内面：10YR7/4にぶい黄橙 外面：10YR7/4にぶい黄橙	外面ヘラ、横ナデ
56	10－12	37	Ⅱ層	杯	土師器	12.3	3.4	5.0	精選された胎土	良	内面：2.5Y7/3浅黄 外面：2.5Y7/4浅黄	内外回転ロクロナデ調整
57	10－4	8	Ⅱ層	杯	土師器	13.1	3.4	8.2	精選された胎土	良	内面：10YR7/4にぶい黄橙 外面：10YR7/4にぶい黄橙	内面ナデ仕上げ
58	10-23	45	Ⅱ層	高杯	土師器	20.0			精選された胎土	良	内面：7.5YR7/6橙 外面：7.5YR7/6橙	内外面横ナデ
59	10－6	18	Ⅱ層	蓋	土師器	14.7	2.5		精選された胎土	良	内面：5YR6/6橙 外面：5YR6/6橙	内外面ロクロ回転横ナデ 外面一部ヘラ／扁平なつまみ
60	10－3	6	Ⅱ層	碗	土師器	17.9	5.3	13.4	精選された胎土	不良	内面：7.5YR5/4にぶい褐 外面：7.5YR6/4にぶい橙 断面：2.5Y4/1黄灰	内面回転横ナデ 外面ヘラ
61	10－18	44	Ⅱ層	高杯 脚	土師器	22.2			石英、小石をやや多く含む	良	内面：5YR6/6橙 外面：5YR6/6橙 断面：5YR6/6橙	回転ロクロ横ナデ
62	10-26	21	Ⅱ層	蓋	須恵器	14.8	2.0		石英、小石をやや多く含む	良	内面：2.5Y6/2灰黄 外面：7.5Y6/1灰 断面：2.5Y6/1黄灰	内外面横ナデ

表３　遺物観察表

実測No.	図No.	写真No.	出土地点 遺構・層位	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	特徴 成形／調整／その他
63	10-27	60	Ⅱ層	蓋	土師器	20.0			石英、小石をやや多く含む	良	内面：7.5YR7/4にぶい橙 外面：7.5YR7/4にぶい橙 断面：	回転ロクロ横ナデ
64	10-2	5	Ⅱ層	碗	須恵器	15.6	5.4	9.2	精選された胎土	良	内面：2.5Y6/1黄灰 外面：5Y6/1灰 断面：	
65	6－3	3	Ⅱ層	杯	土師器	13.8	3.2	9.6	精選された胎土	良	内面：2.5Y6/2灰黄 外面：2.5Y7/2灰黄 断面：	回転ナデ／回転ヘラ切 内底面ナデ
66	6－2	15	Ⅱ層	杯	土師器	14.0	3.3	8.0	精選された胎土	良	内面：7.5YR5/4にぶい褐 外面：10YR6/4にぶい黄橙 断面：	回転ナデ／内底面ナデ
67	6－6	67	Ⅱ層	杯	土師器			7.7	精選された胎土	良	内面：10YR6/4にぶい黄橙 外面：10YR6/4にぶい黄橙 断面：	回転ナデ／内底面ナデ
68	6－13	83	Ⅱ層	土錘	土師器	4.8 全長	1.9 全幅	1.2 全厚	精選された胎土	良	内面：7.5YR6/6橙 外面：10YR7/4にぶい橙 断面：	
69	6－1	9	Ⅱ層	杯	土師器	22.2	6.6	9.8	精選された胎土	良	内面：5YR6/6橙 外面：7.5YR7/4にぶい橙 断面：	回転ナデ／内定面ナデ
70	6－14	76	Ⅱ層	叩石	石器	19.9 全長	8.5 全幅	4.0 全厚			内面： 外面： 断面：	
71	6－12	71	Ⅱ層	高杯 (脚部)	土師器				精選された胎土	良	内面：10YR7/6明黄橙 外面：5YR6/6橙 断面：10YR7/6明黄橙	
72	6－11	70	Ⅱ層	高杯 (脚部)	土師器				精選された胎土	良	内面：5YR6/6橙 外面：7.5YR6/6橙 断面：7.5YR6/6橙	
73	6－10	72	Ⅱ層	高杯 (脚部)	土師器				精選された胎土	不良	内面：5YR6/6橙 外面：5YR6/6橙 断面：10YR7/4にぶい黄橙	
74	6-16	86	二層	鉛玉	金属	1.4 全長	1.4 全幅	1.4 全厚			内面： 外面： 断面：	
75	6-4	4	二層	杯	須恵器	13.0	3.5	7.7	精選された胎土	不良	内面：2.5Y6/2灰黄 外面：2.5Y6/2灰黄 断面：	回転横ナデ
76	6-5	35	二層	皿	須恵器	13.9	2.6	12.4	精選された胎土	良	内面：5Y6/1灰 外面：N6灰 断面：	回転ナデ
77	6-8	36	二層	皿	須恵器	15.0	1.6	11.6	精選された胎土	良	内面：5Y6/1灰 外面：5Y6/2灰ｵﾘｰﾌﾞ 断面：2.5Y6/1黄灰	回転ナデ／内底面ナデ
78	6-9	62	二層	甕 (口縁部)	土師器	26.4			精選された胎土	不良	内面：10YR6/4にぶい黄橙 外面：10YR6/4にぶい黄橙 断面：10YR6/4にぶい黄橙	刷毛調整／指圧調整
79	7-1	2	二層	碗	須恵器	13.0	4.6	8.8	精選された胎土	良	内面：2.5Y5/1黄灰 外面：7.5Y7/1灰白 断面：	内外面横ナデ
80	7-2	16	二層	碗	須恵器	16.7	5.7	9.6	精選された胎土	良	内面：10YR5/3にぶい黄褐 外面：7.5YR5/3にぶい褐 断面：	内外面横ナデ
81	7-9	80	二層	土錘	土師質	5.8 全長	2.0 全幅		精選された胎土	良	内面：2.5Y7/2灰黄 外面： 断面：	
82	7-8	47	二層	甕	土師器	24.2			精選された胎土	良	内面：7.5YR6/4にぶい橙 外面：10YR6/4にぶい黄橙 断面：10YR6/4にぶい黄橙	回転ナデ／内底面ナデ 回転ヘラ切
83	7-6	56	二層	甕	須恵器				精選された胎土	良	内面：2.5Y6/2灰黄 外面：2.5Y6/2灰黄 断面：2.5Y6/2灰黄	内外面横ナデ
84	7-3	53	二層	皿	土師器	17.0			精選された胎土	不良	内面：10YR5/2灰黄褐 外面：10YR5/2灰黄褐 断面：7.5YR7/4にぶい橙	内外面横ナデ
85	6-7	55	二層	皿	土師器			9.9			内面：10YR4/1褐灰 外面：10YR6/3にぶい黄橙 断面：10YR4/1褐灰	
86	7-5	10		杯	土師器	13.6	3.5	9.4			内面：2.5YR5/6明赤褐 外面：7.5YR6/6橙 断面：	
87	7-7	30	TR－4 二層	壷	弥生土器	22.3					内面：2.5Y7/3浅黄 外面：2.5Y7/3浅黄 断面：2.5Y8/2灰白	

表４　遺物観察表

第Ⅳ章　総　括

弥生時代

土佐山田町において弥生時代中期の遺跡は数少ない。当須江地区においては県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財確認のため、全域にわたりグリット調査を実施しているが、その時の調査時に竪穴式住居跡が県道北側で発見されている。また松ノ本地区の四国電力鉄塔新設時における発掘調査においても小型の竪穴式住居跡が確認されており、周辺には新改川中位段丘面において弥生時代中期の遺跡が散在している。本調査において竪穴式住居跡が１棟確認されたことから、ある一定の集落を形成していた可能性が高い。

古　代

須江上段遺跡の調査区においては調査面積の関係から、まとまった遺構は確認されていないが、多くの須恵器、土師器が出土している。出土遺物の殆どが完形品に近く、殆ど歪んだ土器は見られない。

これらの遺物は、須恵器、土師器ともに同一時期に限定される。すなわち８世紀中期から８世紀末にかけてのもので特に、土師器、須恵器など同一時期の一括資料として貴重である。須江上段遺跡周辺には須恵器窯跡や瓦窯跡が分布しており、周辺の窯跡との関係から窯跡に関係する遺物であろう。このことは土佐山田町須江古窯跡群の成立を考える上で重要である。また今回の調査から土師器に関係する遺物も多く見られることから今後、土師器生産関係の遺跡とも考えられる。よって本遺跡は土佐における須恵器、土師器の土器生産体制の状況を考える貴重な資料となろう。

現在のところ新改、須江地区に所在する須江古窯跡群は７世紀から10世紀の時期であり、近隣の野市町に所在する10世紀から11世紀にかけての亀山古窯跡群、白岩古窯跡群との関連と比較検討すべき課題となる。

中　世

中世に該当する遺構は確認されていない。遺物は若干みられるものの、古代と対比させると非常に少ない。また本地域は「長宗我部地検帳」にみられる集落は現在の集落と殆ど相違が無く、中世の農村集落は現集落と重複しており、遺構は現集落内に存在する可能性が高い。

附編　須江地区における古墳時代から古代にかけての様相

土佐山田町須江地区は、新改川（国分川）左岸に位置し、一部右岸に飛び地が存在する。第四紀の地形としては新改川に沿って高位段丘、中位段丘、低位段丘が明確にみられる。高位段丘は植の県道沿い東側に海抜50～60mの段丘がみられ、新改地区の山麓部にもみられる。中位段丘は町立香

長小学校から須江の集落及び右岸の久次の集落にかけてみられる。低位段丘は須江、久次の新改川旧氾濫地帯にあたり現在、低位段丘に住家はなく土地利用は農地である。[1]

地形的には中位段丘を中心としてその周辺部も含めて旧石器時代から古代にかけての遺跡の分布密度が高い地域である。特に古墳時代には須江地区北側の新改、上改田地区の山麓部を中心に後期の古墳群（新改古墳群）が形成[2]されその規模も土佐山田町指定史跡である新改横走１号古墳[3]や須江ツカアナ古墳[4]のように高知県内では大規模な規模を有する。

７世紀代には植、新改地区を中心に窯が築かれ、11世紀頃まで大法寺、入野地域を含めて高知県内最大の古代の窯業生産遺跡、須江古窯跡群が形成[5]される。当地域の窯跡群は現在までの調査では須恵器窯が多く確認されているが一部、瓦も焼成されていることが確認されている。焼成瓦の供給先は南国市比江に所在する国指定史跡である比江廃寺跡や土佐国分寺である。[6]

奈良時代において長岡郡に所属していたと考えられる。この新改、須江、入野、上改田、久次地域を含めて『和名類聚抄』にみえる郷の一つである土佐国長岡郡「登利郷」の推定地とされている。従来の研究では「登利郷」の位置について土佐山田町新改説と高知市十市・三里説が論じられてきたが近年の研究成果からこの「登利郷」を従来の読み方「トカリ」に対して新たに「アカリ」と読むことが解り、両方の呼び名があったことが判明している。両方の呼び名が現在新改地区の小字にも見られることから新改説が有力となっている。またこの地名の成立要素を古代の須恵器生産に係わる「登り窯」との関係を指摘[7]されている。しかし律令制における郷の口分田の班給による耕地面積を一郷250町とした場合[8]、中世末の『長宗我部地検帳』から新改、須江、上改田、久次などの耕地面積は70町余りしかなく隣接する殖田郷（南国市植田）を含まなければ難しい。しかしながらこの地域は前述した通り古代の土佐国においては最大の窯業生産地帯であり、また操業も長期間に及び、かつ土佐国府に近接する土佐国分寺、比江廃寺跡などの瓦生産も係わっていることから土佐国府に掌握された直営の官営工房とみれば農業生産の従事より窯業生産の従事が主たるものであったと考えられる。

註

（１）『陶の里』香長小学校創立百周年記念誌　Ｐ10　編集　香長小学校創立百周年記念誌推進委員会
　　発行　香長小学校創立百周年記念事業実行委員会　1995

（２）『土佐山田町史』Ｐ96～108　土佐山田町教育委員会　1979

（３）註（２）と同じ　Ｐ99～100

（４）『須江ツカアナ古墳』土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第20集　土佐山田町教育委員会　2002

（５）註（２）と同じ　Ｐ126～154

（６）『南国市史上巻』　Ｐ442　1979

（７）「和名類聚抄にみられる土佐国の郷の歴史地理学的研究－長岡郡登利郷について－」朝倉慶景『土佐山田史談』第19号　土佐山田史談会　1994

（８）高重　進『古代・中世の耕地と村落』

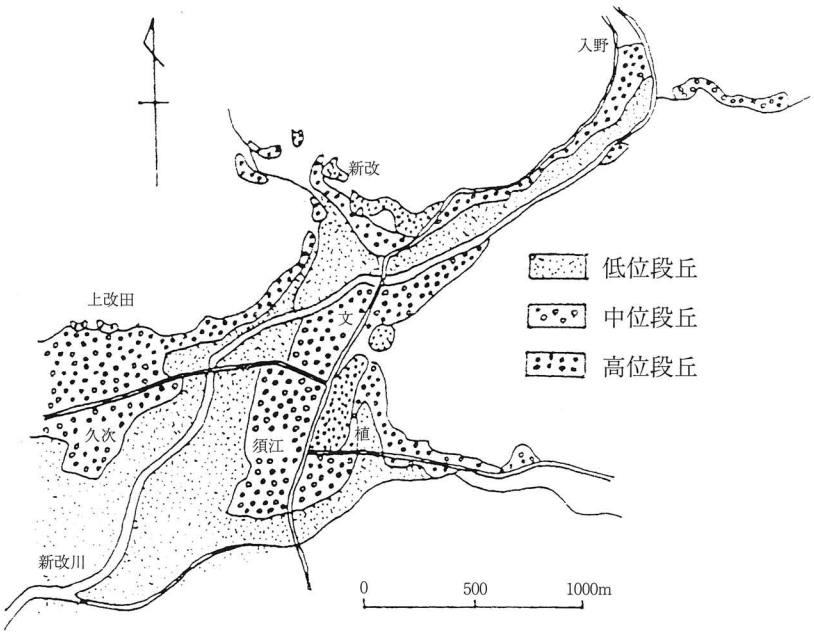


図11　土佐山田町新改地区　地形図

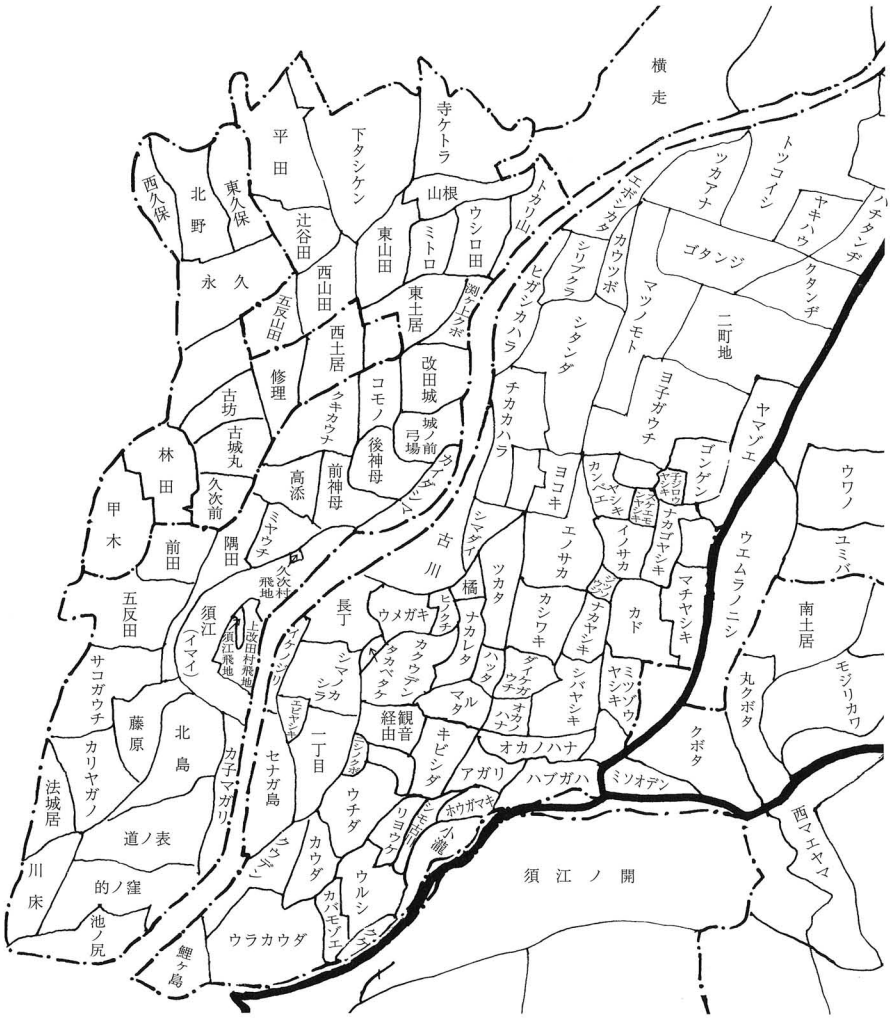
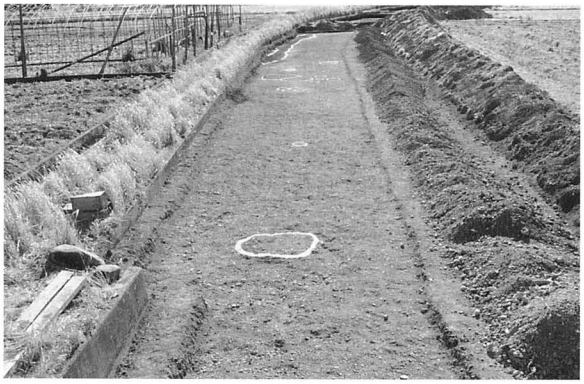


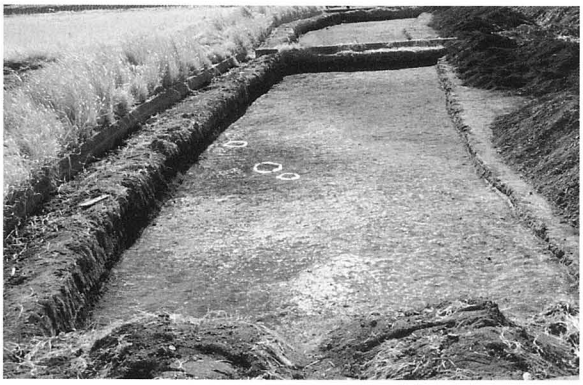
図12　土佐山田町新改地区　小字図

写真図版



Ⅰ区　調査区１　遺構検出状況

Ⅰ区　調査区１　遺構検出状況



Ⅰ区　調査区２　遺構検出状況

Ⅰ区　調査区１　遺構検出状況

Ⅰ区　調査区３　遺構検出状況

Ⅰ区　調査区４　遺構検出状況

Ⅰ区　調査区４　遺構検出状況

Ⅰ区　調査区５　遺構検出状況

Ⅰ区　調査区５　遺構検出状況

Ⅰ区　調査区６　遺構検出状況

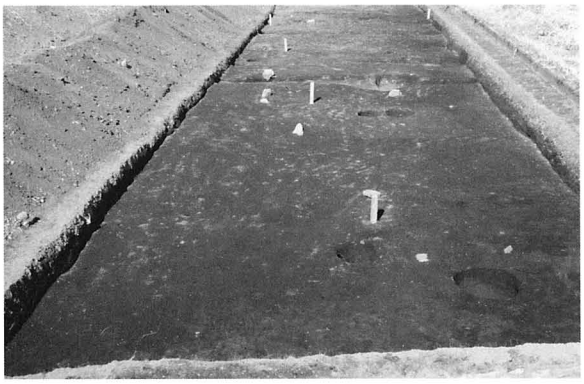
Ⅰ区　調査区１　遺構完掘状況

Ⅰ区　調査区１　遺構完掘状況

Ⅰ区　調査区１　遺構完掘状況

Ⅰ区　調査区３　遺構完掘状況

Ⅰ区　調査区４　遺構完掘状況



Ⅰ区　調査区４　遺構完掘状況

Ⅰ区　調査区４　遺構完掘状況

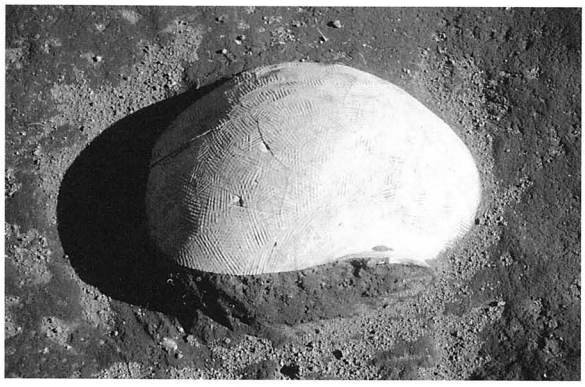
Ⅰ区　調査区４　遺構完掘状況

Ⅰ区　調査区５　遺構完掘状況

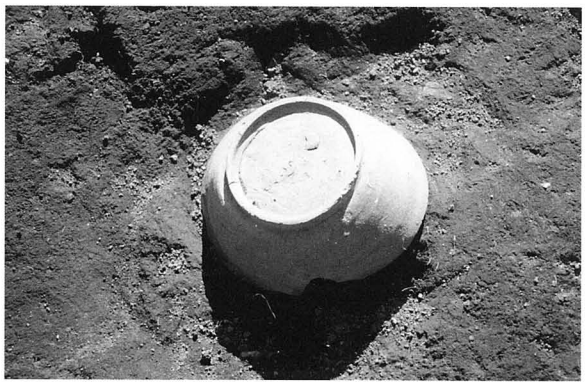
Ⅰ区　調査区６　遺構完掘状況

Ⅰ区　調査区６　遺構完掘状況

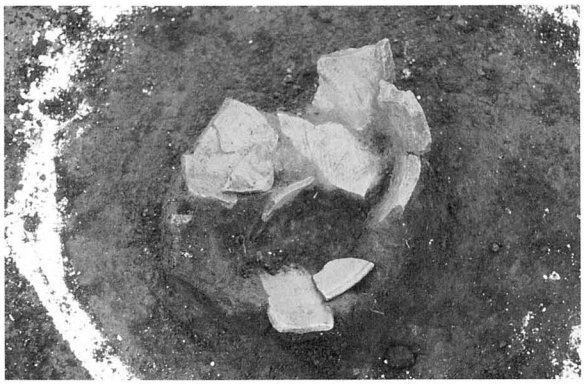
Ⅰ区　調査区６　遺物出土状態



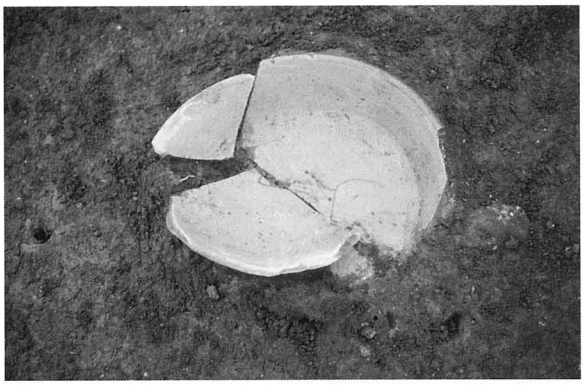
Ⅰ区　調査区６　遺物出土状態



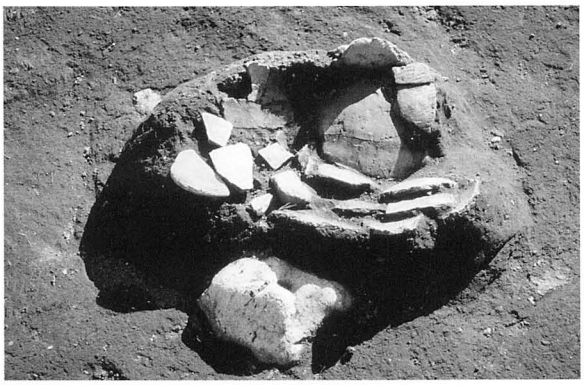
Ⅰ区　調査区６　遺物出土状態



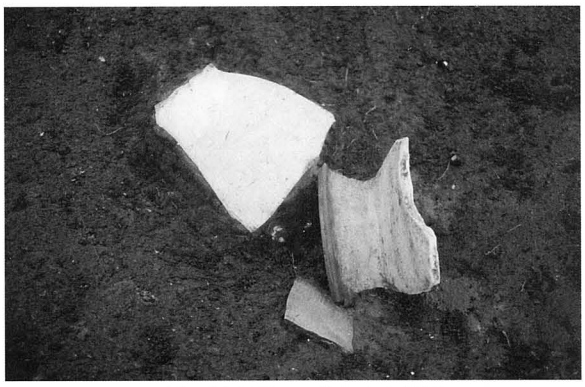
Ⅰ区　調査区３　遺物出土状態



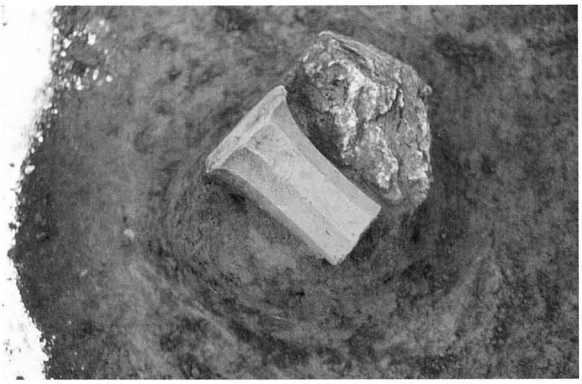
Ⅰ区　調査区３　遺物出土状態



Ⅰ区　調査区３　遺物出土状態



Ⅰ区　調査区３　遺物出土状態



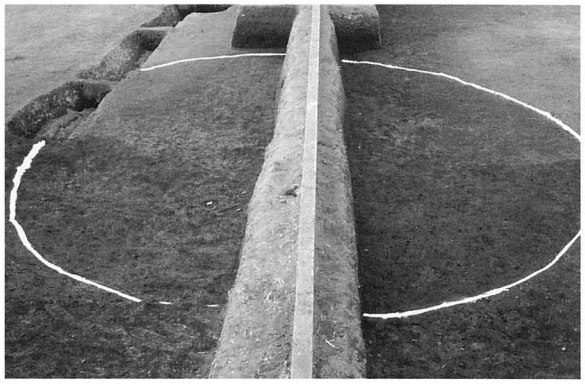
Ⅰ区　調査区５　遺物出土状態

Ⅰ区　調査区５　遺物出土状態

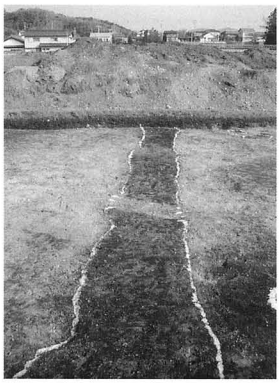
Ⅰ区　調査区５　遺物出土状態

Ⅰ区　調査区５　遺物出土状態

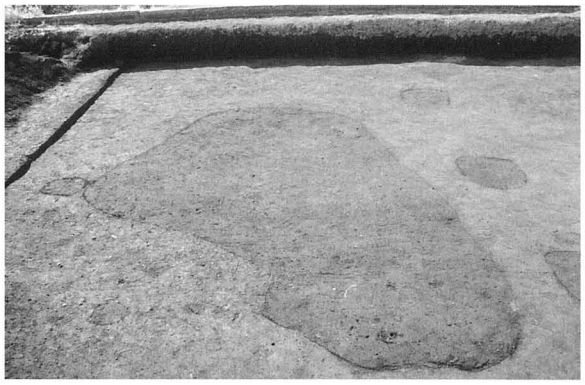
Ⅰ区　調査区７　遺構検出状況



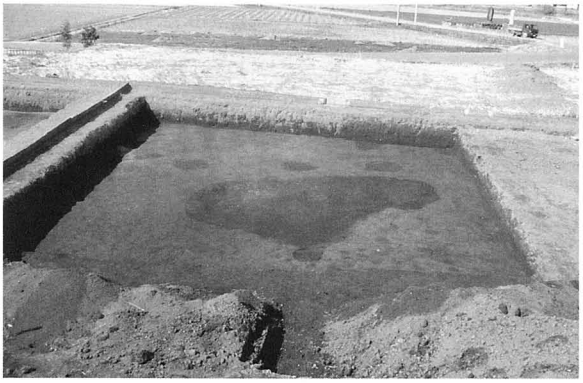
Ⅰ区　調査区７　遺構検出状況（ST－1）



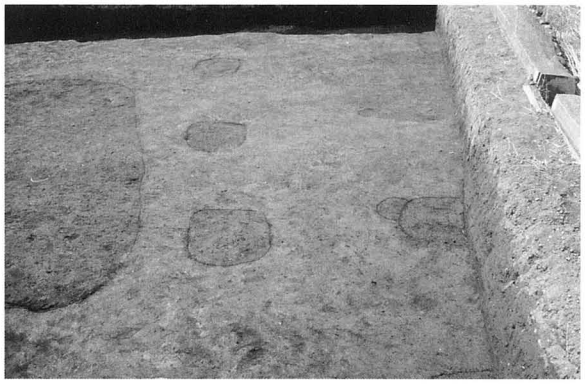
Ⅰ区　調査区７　遺構検出状況（SD－1）



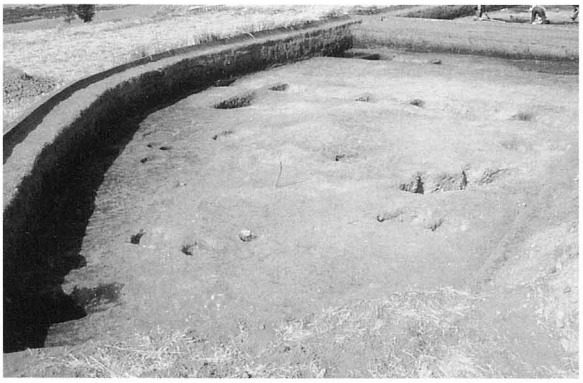
Ⅰ区　調査区７　遺構検出状況（SX－1）



Ⅰ区　調査区７　遺構検出状況



Ⅰ区　調査区７　遺構検出状況（SB－1）



Ⅰ区　調査区７　遺構完掘状況

Ⅰ区　調査区７　遺構完掘状況

Ⅰ区　調査区７　遺構完掘状況

Ⅰ区　調査区７　遺構完掘状況

Ⅰ区　調査区７　遺構完掘状況

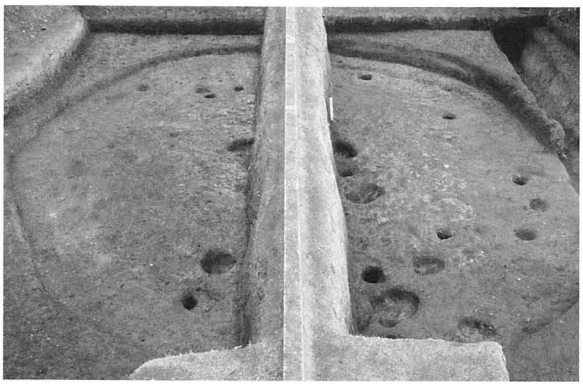
Ⅰ区　調査区７　遺構完掘状況（SD－1・SD－2）

Ⅰ区　調査区７　遺構完掘状況

Ⅰ区　調査区７　遺構完掘状況

Ⅰ区　調査区７　SD－2 セクション

Ⅰ区　調査区７　遺構完掘状況



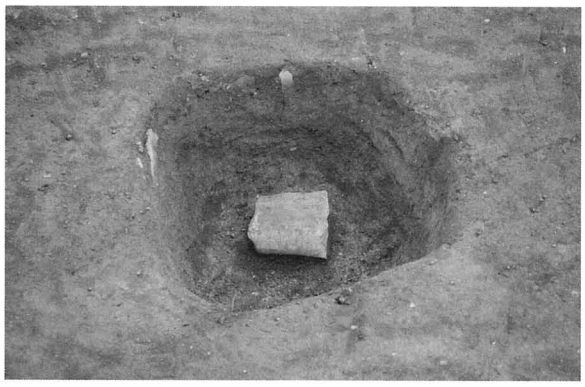
Ⅰ区　調査区７　遺構完掘状況（ST－1）

Ⅰ区　調査区７　遺構完掘状況

Ⅰ区　調査区７　遺構完掘状況（SX－1・SB－1）

Ⅰ区　調査区７　遺構完掘状況（SB－1）

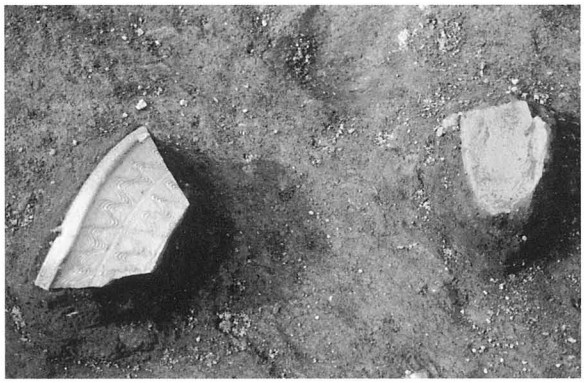
Ⅰ区　調査区７　遺構完掘状況（SB－1）



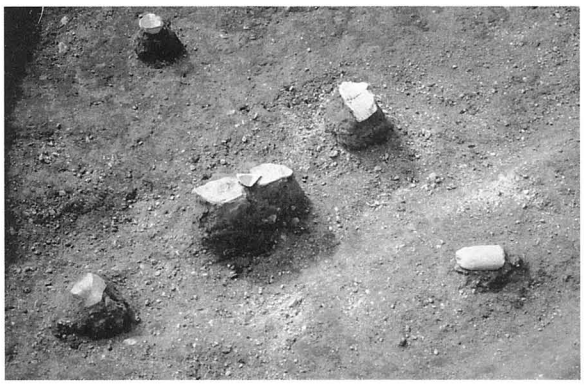
Ⅰ区　調査区７　遺構完掘状況（ピット内　石）

Ⅰ区　調査区７　遺構完掘状況（SX－1）

Ⅰ区　調査区７　遺物出土状態（SX－1）

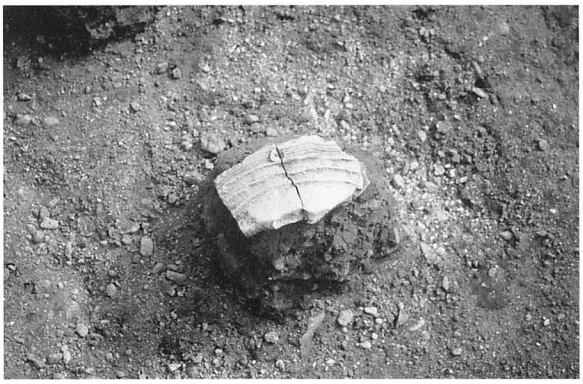


Ⅰ区　調査区７　遺物出土状態（SX－1）



Ⅰ区　調査区７　遺物出土状態（ST－1）

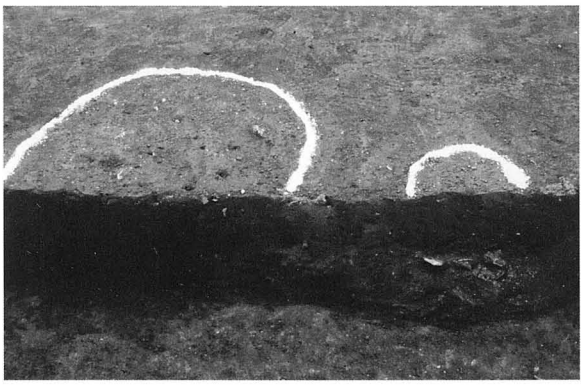
Ⅰ区　調査区７　遺物出土状態（ST－1）



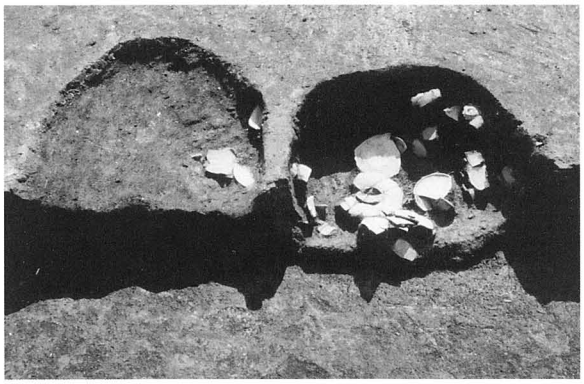
Ⅰ区　調査区７　遺物出土状態（ST－1）

Ⅰ区　調査区７　遺物出土状態（ST－1）

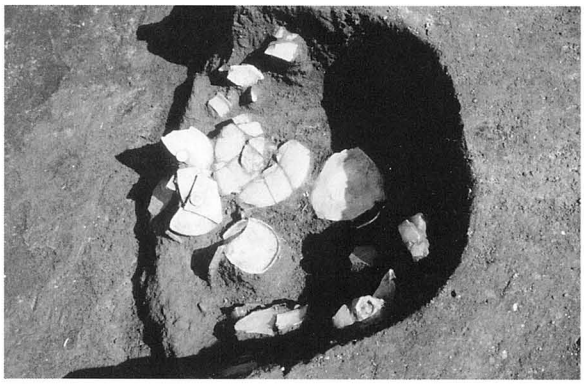
Ⅰ区　調査区７　遺物出土状態（ST－1）



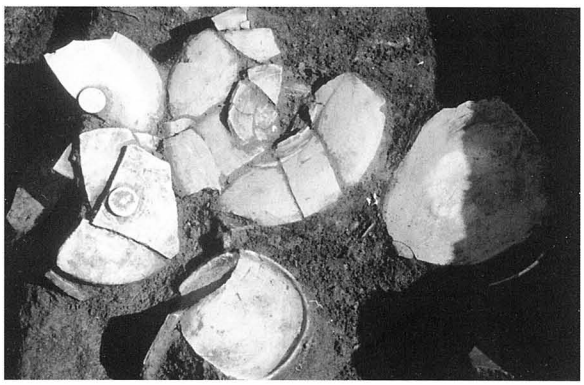
Ⅱ区　調査区１　遺構検出状況



Ⅱ区　調査区１　遺物出土状態



Ⅱ区　調査区１　遺物出土状態

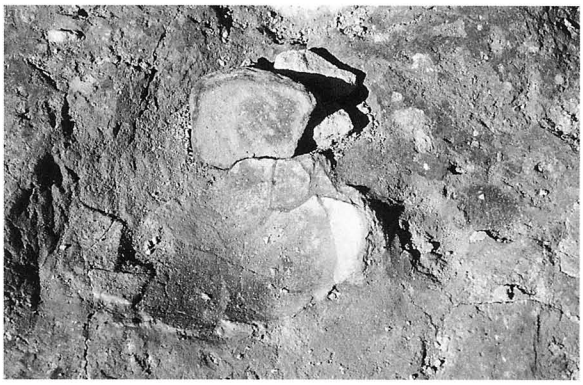


Ⅱ区　調査区１　遺物出土状態

Ⅱ区　調査区１　遺物出土状態

Ⅱ区　調査区１　遺物出土状態

Ⅱ区　調査区１　遺物出土状態

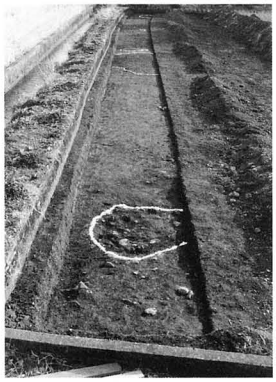


Ⅱ区　調査区１　遺物出土状態

Ⅱ区　調査区１　遺構完掘状況

Ⅱ区　調査区１　遺構完掘状況

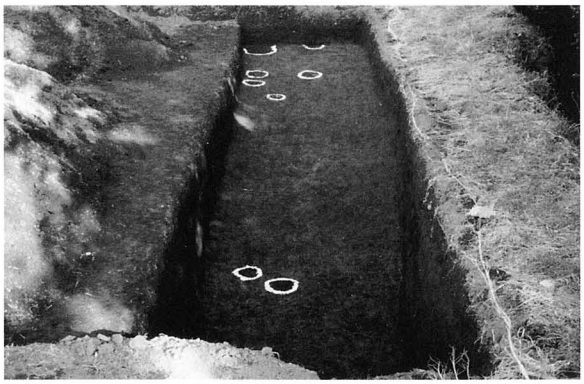
Ⅱ区　調査区１　遺構完掘状況



Ⅱ区　調査区１　遺構検出状況

Ⅱ区　調査区２　遺構完掘状況

Ⅱ区　調査区２　遺構完掘状況

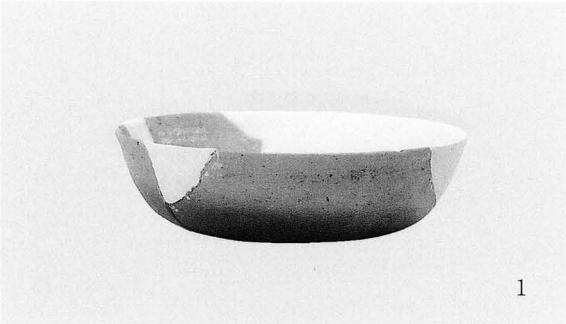


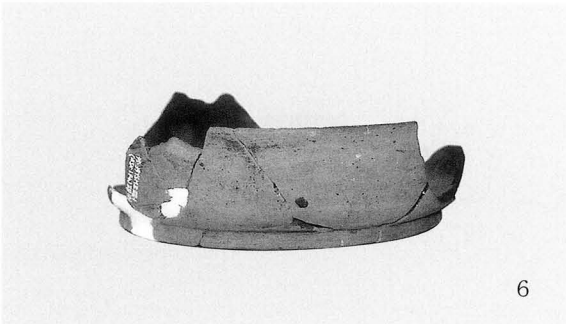
Ⅱ区　調査区５　遺構検出状況

Ⅱ区　調査区４　遺構検出状況

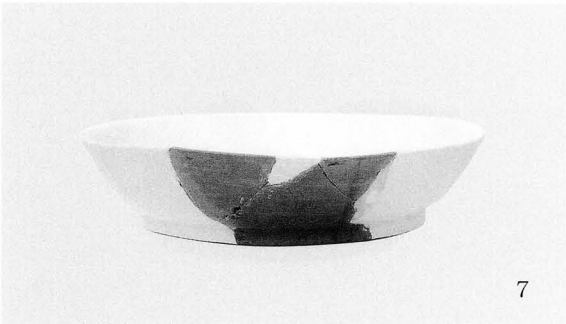
Ⅱ区　調査区３　遺構完掘状況

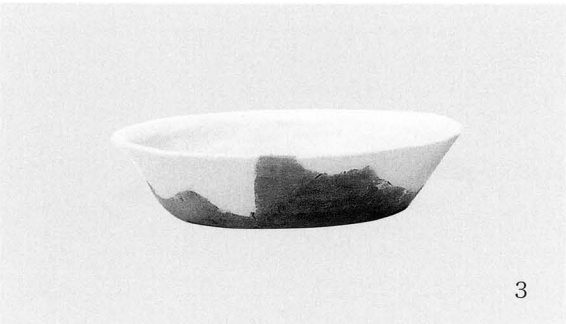
Ⅱ区　調査区３　遺構完掘状況


1


6

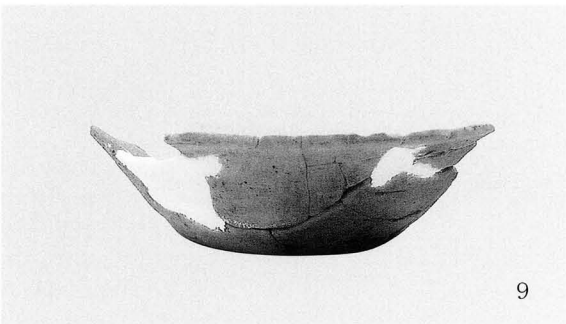
2

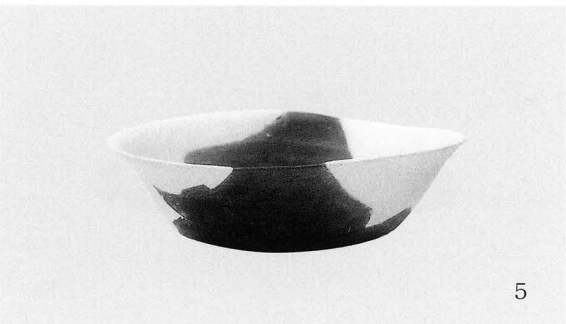

7

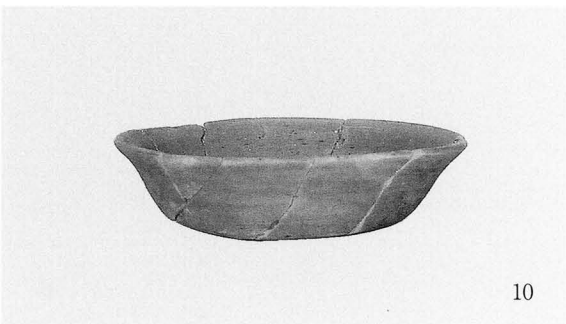

3

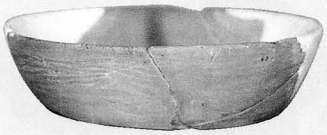
8

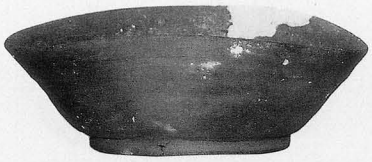
4

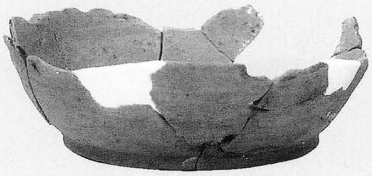

9

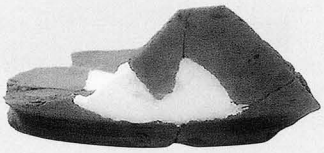

5


10


11


16


12

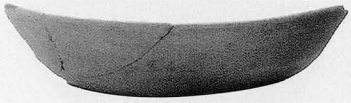

17

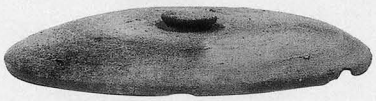
13

18

14

19


15

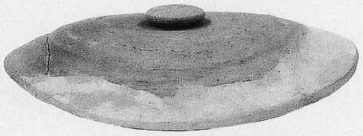

20

21

26

22

27



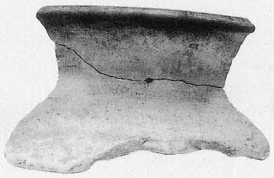
23

28

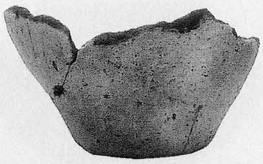
24

29

25



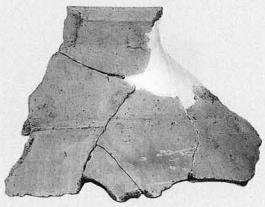
30


31

36

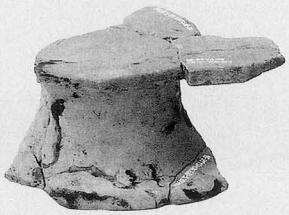
32

37


33

38

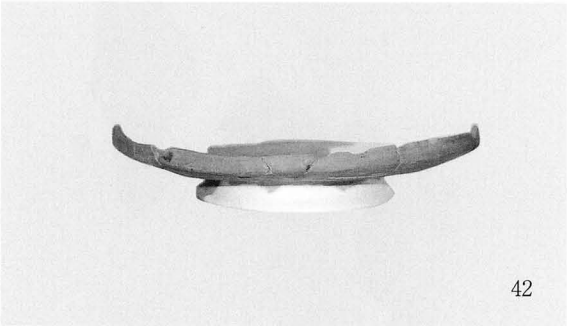
34

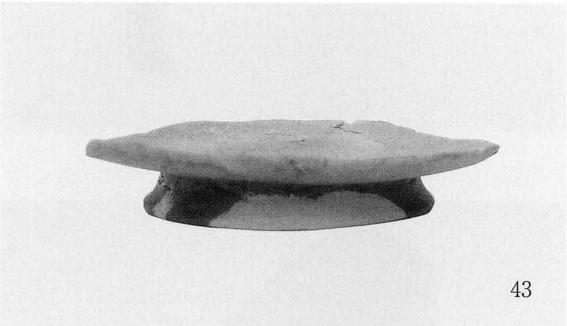

39

35

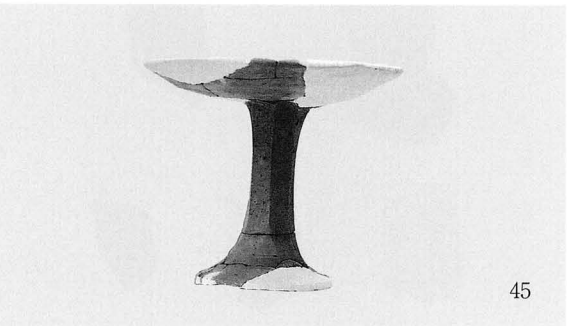
40

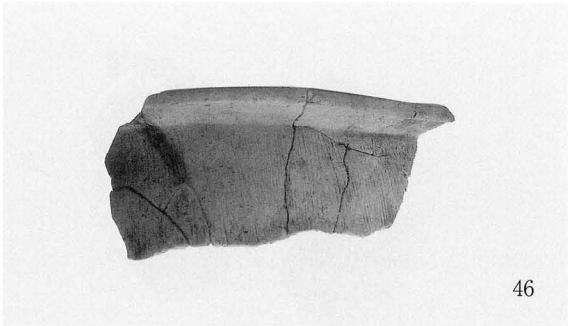
41

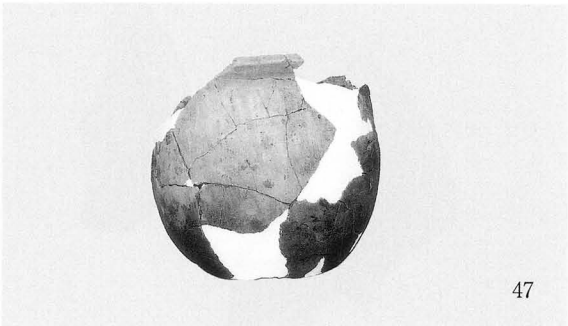

42


43

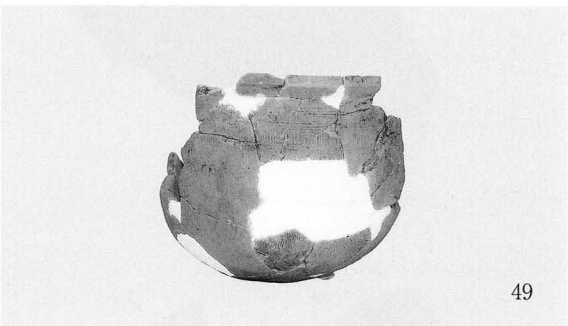
44

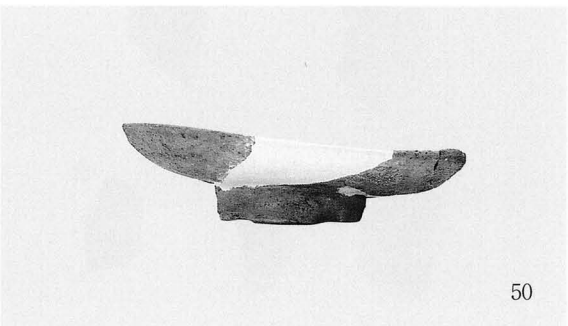

45

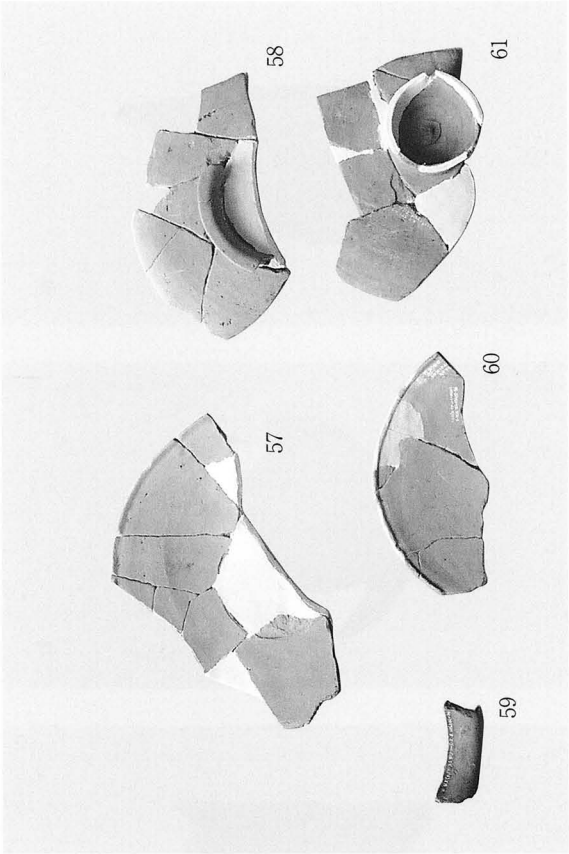

46

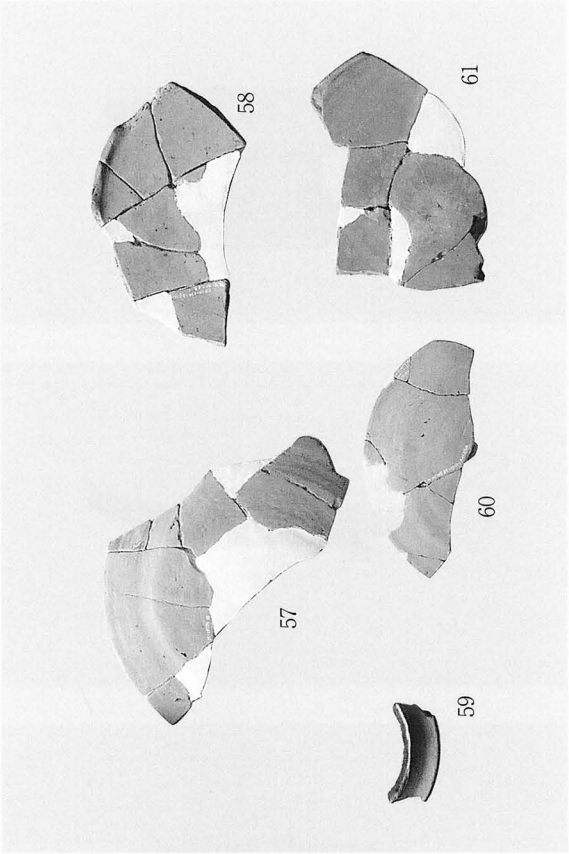

47

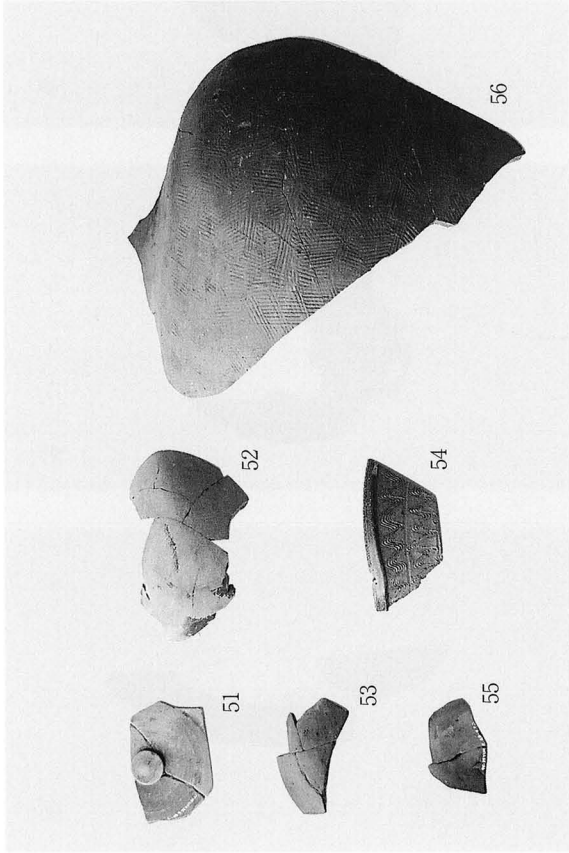
48

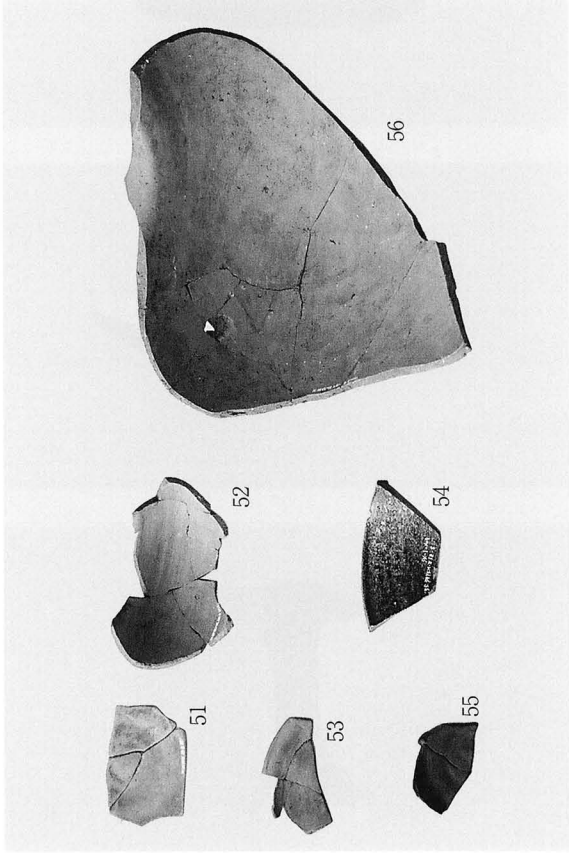

49

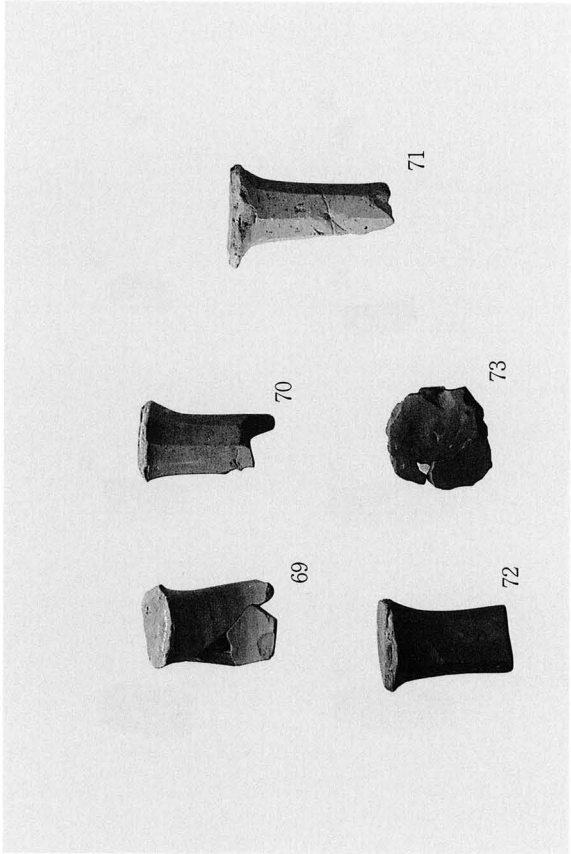

50

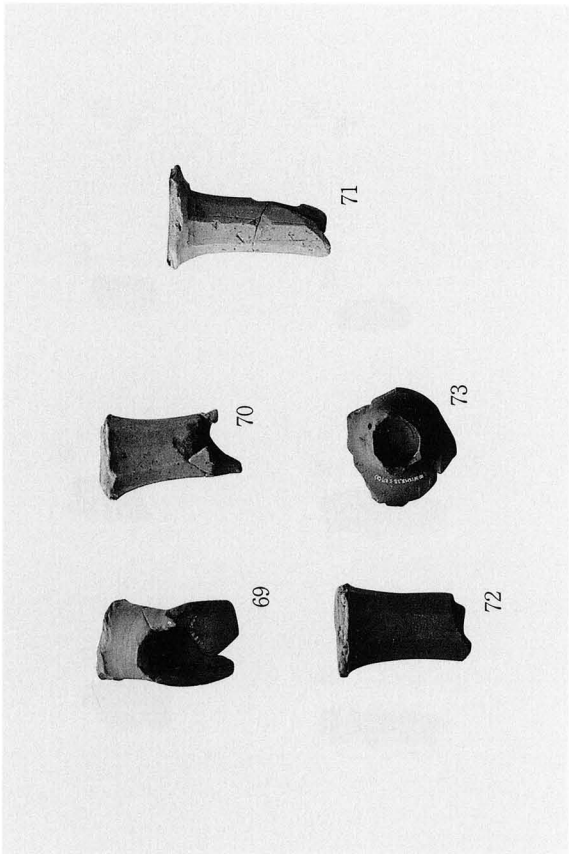

58
61
57
60
59

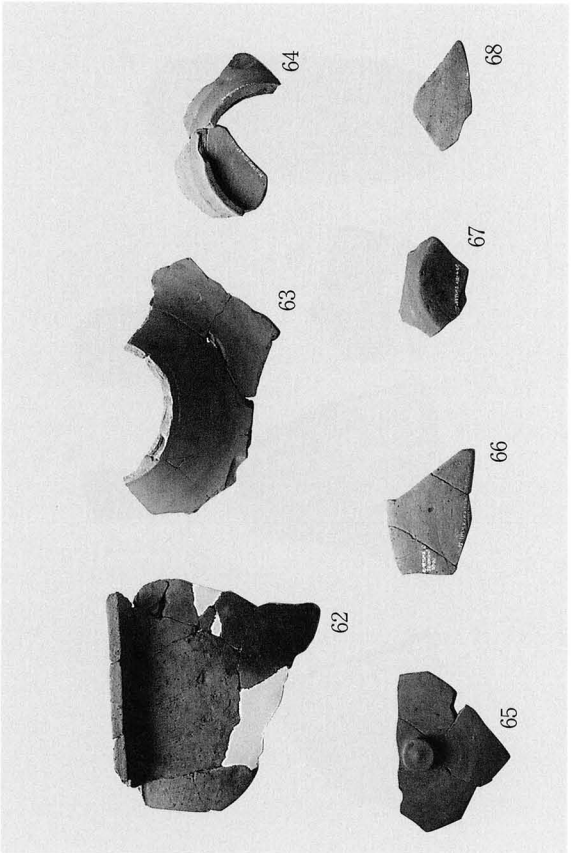

58
61
57
60
59

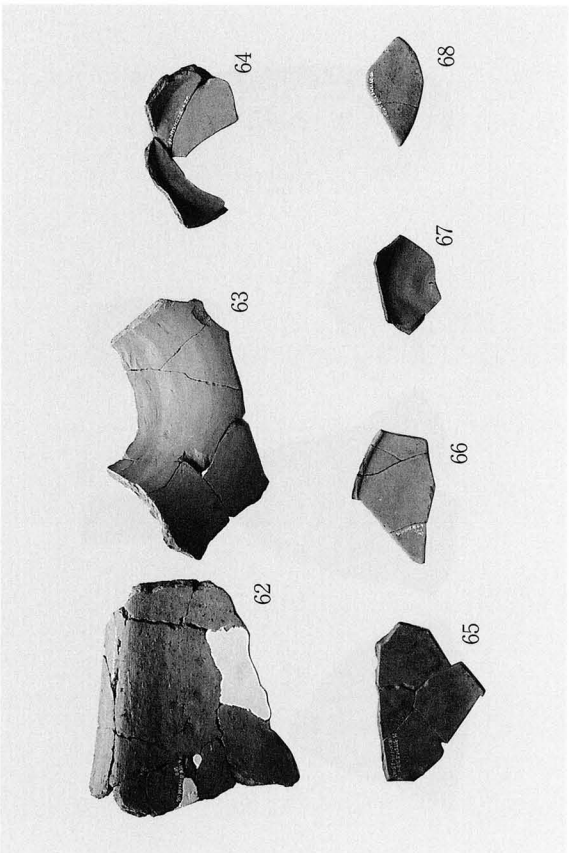

56
52
54
51
53
55

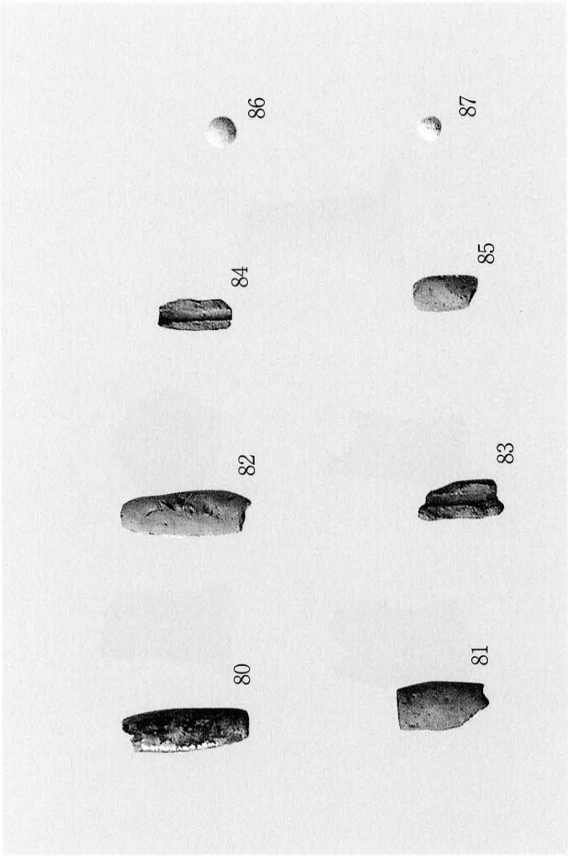

56
52
54
51
53
55

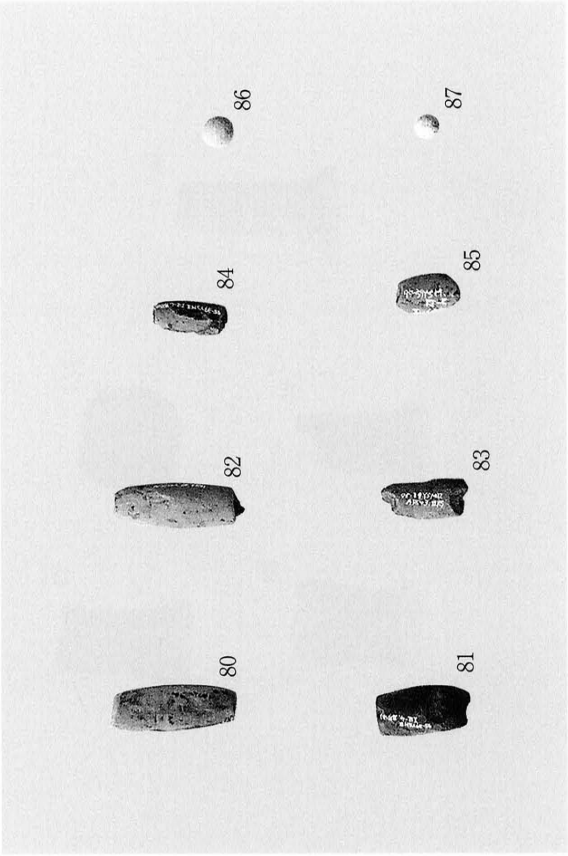

69
70
71
72
73

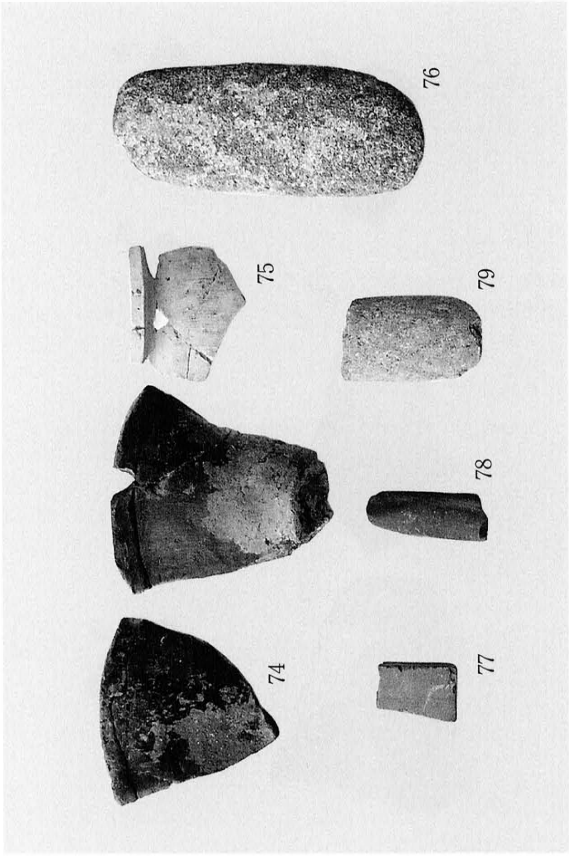

69
70
71
72
73

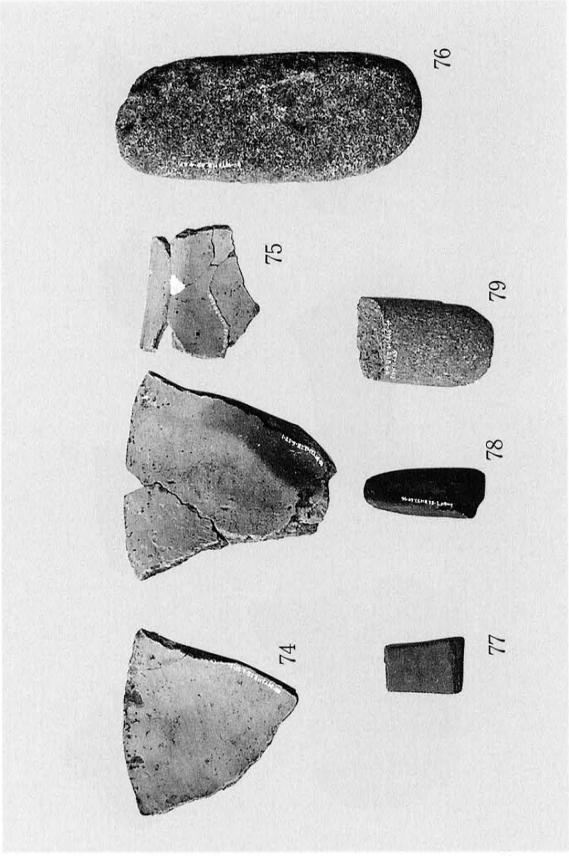

62
63
64
65
66
67
68


62
63
64
65
66
67
68


80
82
84
86
81
83
85
87


80
82
84
86
81
83
85
87


74
75
76
77
78
79


74
75
76
77
78
79

報告書抄録

ふりがな	すえじょうだんいせきまつのもとちく
書名	須江上段遺跡松ノ本地区
副書名	山田北部地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第23集
編著者名	中山泰弘
編集機関	土佐山田町教育委員会
所在地	〒782-0017　高知県香美郡土佐山田町岩積365－1
発行年月日	平成16年7月30日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
すえじょうだんいせき 須江上段遺跡 まつのもとちく 松の本地区	こうちけん 高知県 かみぐん 香美郡 とさやまだちょう 土佐山田町 すえ 須江 あざまつのもと 字松ノ本	393231	190072	33° 37′	133° 40′	1995.12.1 ～ 1996.3.29	1,800㎡	県営山田北部地区圃場整備事業に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
須江上段遺跡	集落	弥生 ～ 近世	柱穴・溝跡・土坑・竪穴住居跡	弥生土器、須恵器、土師器、土師質土器、青磁、備前焼、石器	

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第23集

須江上段遺跡松ノ本地区

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成16年７月30日

編集・発行　土佐山田町教育委員会

高知県香美郡土佐山田町岩積３６５－１

TEL　０８８７－５３－３１１１(代)

印刷　有限会社西村謄写堂